★★ 平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 構造設計特記仕様　その１

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm² 以上 60 N/mm² 以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295A、SD295B、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所

（２）工事種別

■新築　□増築　□改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　□必要　■必要としない

□　法第20条第二号（ □RC造高さ 20 m超　□S造 4 階建以上　□木造高さ 13 m超　□その他 ）

□

（４）階数

地下　階　地上　1　階　塔屋　階
地下　階　地上　　階　塔屋　階
地下　階　地上　　階　塔屋　階

（５）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■鉄筋コンクリート造　(RC)	基礎　階～　階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)	階～　階	□制震建物
□鉄骨造　(S)	階～　階	□塔状建物
■ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造　(PRC)		□
□		□
□		□

（６）主要用途

□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　■観覧場　□

（７）屋上付属物

□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□

（８）設計荷重

(a)主な積載荷重　(N/m²)

室名	床用	架構用	地震用

(b)1次設計用地震力

Co = 0.2　Z = 1.0　Rt = 1.0　K（地下）=

(c)風荷重

地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速 Vo = 30 m/sec

(d)雪荷重

■垂直積雪量　50 cm　■設計用雪荷重　20 kN/m²　□

(e)特殊の荷重及び仕上材

□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート

X方向ルート　1－（　）　Y方向ルート　1－（　）

（10）一次設計時用層間変形角

X方向　1/ 200 rad　Y方向　1/ 200 rad

（11）付帯工事

□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

（12）特定天井

□有　■無

（13）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
押出し成形セメント版			□ロッキング　□
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	□
折　版	H=　厚	□屋根　□	□
特殊デッキプレート 大臣認定(　)	型式　厚	□屋根　□床版	□

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001，JIS Q 1011，JIS A 5308）

適用箇所 階	部位	設計基準強度 Fc = N/mm²	品質基準強度 Fq = N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ= kN/m³	備考
	□柱　□壁　□ □梁　□床版　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
R階	□柱　■梁　■壁 ■床版　□　□	27	27	18	23	
1階	■柱　■梁　■壁 ■床版　□　□	27	27	18	23	
基礎	■床版　□ ■基礎　■地中梁	27	27	18	23	
	□　□					
	土間コンクリート	■				※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■				※本仕様適用外
セメントの種類		■普通ポルトランドセメント　□中庸熱ポルトランドセメント □低熱ポルトランドセメント　□				
細骨材の種類		□ 砂　□ 山砂　□ 砕砂　□				
粗骨材の種類		□ 砂利　□ 砕石　□　□				
水の区分		■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水　□				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢（■28日　□56日　□91日　□　）				
		養生（□標準　■現場水中　■現場封かん　□　）				
単位水量		■ 185 kg/m³ 以下　□ 175 kg/m³ 以下　□				
単位セメント量		■ 270 kg/m³ 以上　□				
混和剤		■ AE減水剤　□ 高性能減水剤　□				
		□　□　□				
空気量		■ 4.5 % 以下　□ 3.0 % 以下　□				
塩化物量		■ 0.3 kg/m³ 以下　□　□				
水セメント比		■ 65 % 以下　□ 50 % 以下　□				

（２）コンクリートブロック　（■ JIS A 5406）

■ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　■ 150　□ 190　使用箇所（□　□　）

（３）鉄　筋

鉄筋	種類	使用径mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295 A	D10～D16	ﾌｰﾌﾟ，ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ，ｽﾗﾌﾞ，壁，ﾌｰﾁﾝｸﾞ	■重ね継手
	□ SD295 B			■ガス圧接継手
	■ SD345	D19～D25	柱主筋，梁主筋，ﾌｰﾁﾝｸﾞ	□溶接継手
	■ SD390	D29以上	柱主筋，梁主筋	□機械式継手
	□ SD490			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□大臣認定番号 MSRB-
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.（2）鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄　骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A　□SN400B　□SN400C		□有 □無	JIS G 3136
□SN490B　□SN490C　□		□有 □無	JIS G 3136
□SS400　□SS490　□		□有 □無	JIS G 3101
□SM400A　□SM490A　□		□有 □無	JIS G 3106
□BCR295　□BCP235　□BCP325		□有 □無	大臣認定番 認定番号 MSTL-
□STKR400　□STKR490　□		□有 □無	JIS G 3466
□SSC400　□　□		□有 □無	JIS G 3350
□　□　□			
□　□　□			
溶接材料　□　□			JIS Z
□　□　□			

（５）ボルト等

□高力ボルト
□F10T(JIS B1186)　□S10T 大臣認定番号(　)　(□M16、□M20、□M22、□M24、□　)
□溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号(　)　(□M16、□M20、□M22、□M24、□　)
□
□ボルト(JIS B1180)　M　　M　　□ 4.8(4T)　□　　□
□アンカーボルト（構造用アンカーボルト）
□SS400　M　　L=　　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□ABR400　M　　L=　　mm　ナット（□シングル、□ダブル）（JIS B 1220）
□　M　　L=　　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□頭付スタッド(JIS B1198)
φ=　　L=　　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ=　　L=　　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

４．地　盤

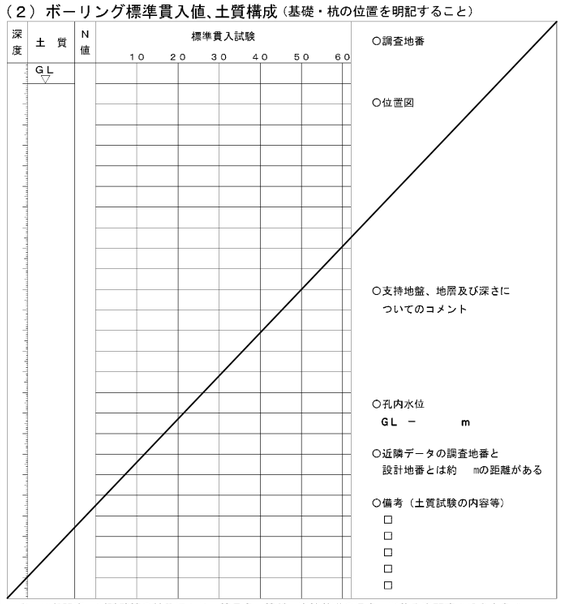
（１）地盤調査資料と調査計画

■有　（■数地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験	●		標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定	●		土質試験	●		物理探査		
試験堀（支持層の確認）	●		平板載荷試験			液状化判定	●	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験	●		ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　■独立基礎　試験堀 □有 ■無
深さ GL－ 1.5 m、支持層－ 砂礫層　、長期許容支持力度　300 kN/㎡　載荷試験 □有 ■無

（２）地盤改良　□浅層混合処理工法　■深層混合処理工法　□
深さ GL－ 5.2 m、長期許容支持力度　300 kN/㎡　載荷試験 □有 ■無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

（３）杭基礎　□支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
□施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
□支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料		施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc	N/mm²	□オールケーシング	認定
	スランプ	cm以下	□リバースサーキュレーション	第　号
	セメント量	kg/m³	□アースドリル	年　月　日
	単位水量	kg/m³	□拡底杭　□拡頭・拡底杭	
			□鋼管補強杭　□	
			□深　礎　□手掘 □機械掘	

既製杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□ PRC	□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種 □	鋼材□	□埋め込み	認定
□ PHC	□A種 □B種 □C種 □	鋼材□	□打ち込み	第　号
□ 鋼管	□	コンクリート□FC85	□	年　月　日
□ SC	□	コンクリート□FC105	□	

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　（□有・□無）　（□打ち込み・□載荷・□孔壁測定）　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
□　日本建築学会「ＪＡＳＳ６ 2015年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□　一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□　鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
□製作工場　□製作要領書　□工作図　□施工計画書
□認定または登録工場（大臣認定　Ｓ　Ｈ　Ｍ　Ｒ　Ｊ　グレード　都登録　T1　T2　T3　ランク）
□材料規格証明書※、または試験成績書
□鋼材　□高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□現寸検査　□組立・開先検査　□製品検査　□建方検査　□

（４）接合部の溶接は下記によること
□　平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□　日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
□　日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（５）接合部の検査
□　溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
□完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	% 個	% 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
□	超音波探傷検査	% 個	% 個	% 個	（注）東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
□	内質検査（注） □硬さ試験	% 個	% 個	% 個	
□	内質検査（注） □赤温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
□	外観検査（※）	% 個	% 個	% 個	
第三者検査機関名			（都知事登録　号）		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

□　高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　□ 否　　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　□ 否
□　一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
□　トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６）防錆塗装
□　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、□JIS K 5674、□　（フォースター　F☆☆☆☆）を使用し、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
□　現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。

（７）耐火被覆の材料
□

７．設備関係

■　建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■　建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■　建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□　煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■　設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■　設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□　エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
■　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■　床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
□
□

８．その他

■　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7　ＴＥＬ　055（226）6770番(代)　ＦＡＸ　055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail ： info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事
構造設計特記仕様書(1)　縮尺　－　(A1)　－　(A3)

図面番号　No. S　1

新 構造設計特記仕様　その２

※修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2015 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm² 以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm² を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
　■標準　　□長期　　□超長期
■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート） に適合するJIS認証工場の製品とする。
□ 設計基準強度が 36 N/mm² を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
□ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36 N/mm² 以下 33 N/mm² 以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm² 未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36 N/mm² 超 45 N/mm² 未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプフロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm² 以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプフロー 60 cm以下とし、特記による。
■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m³ 以下とする。
■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。
■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
■ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

ｉ）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。
□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。
□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
　① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
　② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3 N/mm² 加えた値以上とする。
□ 調合管理強度は、以下による。

$_{H}F_{m} = F_{c} + {}_{m}S_{n}$ (N/mm²)

$_{H}F_{m}$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_{c} ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
$_{m}S_{n}$ ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$_{H}F \geqq {}_{H}F_{m} + 1.73\sigma_{H}$　(N/mm²)
$_{H}F \geqq 0.85\ {}_{H}F_{m} + 3\sigma_{H}$　(N/mm²)

$_{H}F$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
σ_{H} ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm²)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1(F_{c}+$_{m}S_{n}$)とする。

ⅱ）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。
■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ Fm
コ　ア	91 日	X ≧ Fq

ただし、X ： 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$F_{m} = F_{q} + {}_{m}S_{n}$ (N/mm²)

F_{m} ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_{q} ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm²)
$_{m}S_{n}$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値　(N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として 28 日とする。

$F \geqq F_{m} + 1.73\sigma$　(N/mm²)
$F \geqq 0.85\ F_{m} + 3\sigma$　(N/mm²)

F ： コンクリートの調合強度 (N/mm²)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績の少ない場合は 2.5N/mm²、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³ またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³ またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。
□ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
　試験・検査機関名　　（都知事登録　　号）
　代行業者名　　（登録番号　　号）
　代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D（D16）以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■			■ D（D19）以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2015）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5　継手の検査

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	□ 外観検査	全般	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3062:2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□ 外観検査	全般	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0005:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□ 外観検査	全般	目視又は計測
	□ 超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0003:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による

注）1 抜取り１検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は 5本以上とする。

□ 鉄筋の継手の試験・検査は、「要綱」第4条の試験機関、又は第8条の検査機関で行うこと。
　試験・検査機関名　　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.6　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外(2)	屋　内	屋　外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

（４）型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）

種類	せき板				支柱		
部位	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日）　15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%

※　JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5 N/mm² 以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm² 以上、また高強度コンクリートの場合は 10 N/mm² 以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

株式会社　雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
ＴＥＬ　055（226）6770番(代)
ＦＡＸ　055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail ： info@amemiya-sekkei.com

摘　要	月　日			

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製

名　称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事
構造設計特記仕様書(2)
縮　尺　－　(A1)　－　(A3)

図面番号　No. S　2

★★ 平成２７年５月１日 発行 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 監修 東京都建築構造行政連絡会

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

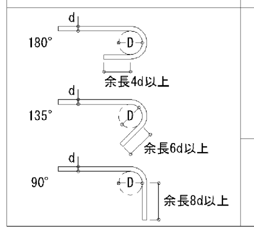
ｄ･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

＠･･･間隔　　ｒ･･･半径　　℄･･･中心線　　ℓo･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１） dは呼び名に用いた数値とする。

（２） スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３） 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４） スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

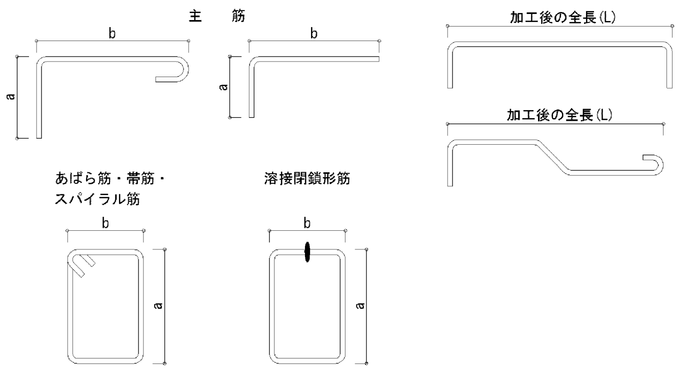
（５） 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６） SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

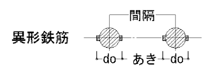
項		目	符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a, b	± 15
		D29以上D41以下	a, b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a, b	± 5
加工後の全長			L	± 20

［注］（１） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

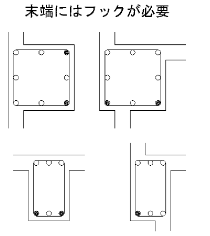


（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ

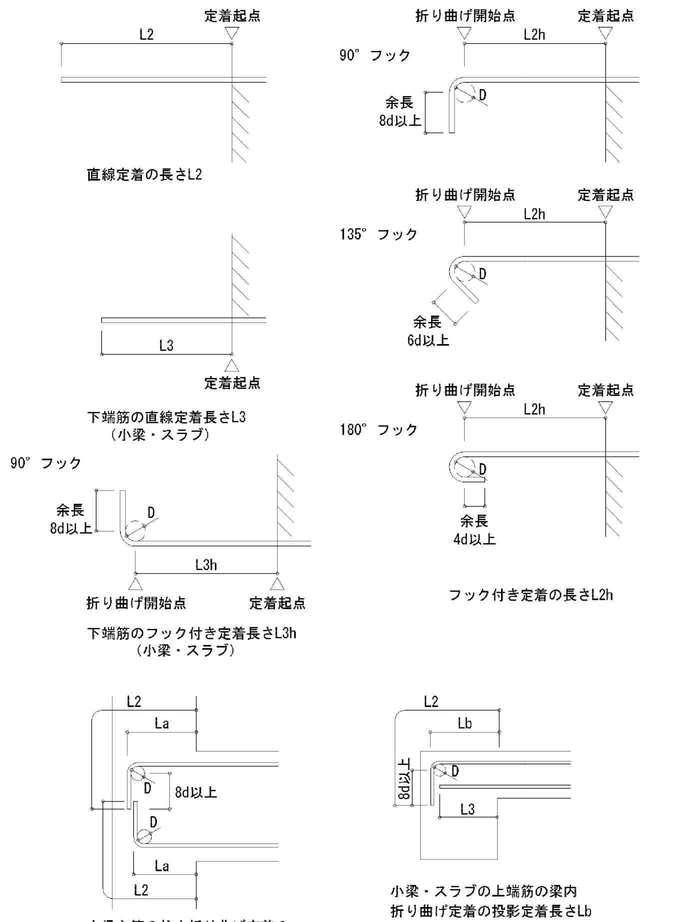
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度Fc(N/mm^2)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	L2h（フックあり）	La(3)	Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

［注］（１） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２） フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



直線定着の長さL2

下端筋の直線定着長さL3（小梁・スラブ）

下端筋のフック付き定着長さL3h（小梁・スラブ）

フック付き定着の長さL2h

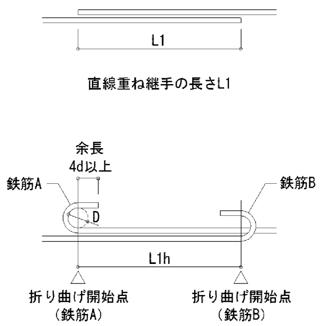
大梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影定着長さLa

小梁・スラブの上端筋の梁内折り曲げ定着の投影定着長さLb

（６）継手

■重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度Fc(N/mm^2)	重ね継手長さ L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



直線重ね継手の長さL1

フック付き重ね継手の長さL1h

［注］（１） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

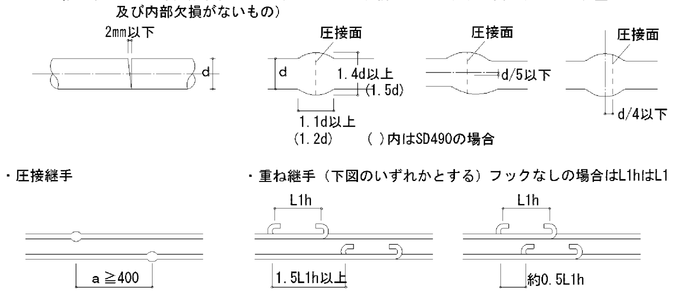
（３） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）

・圧接継手　　・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



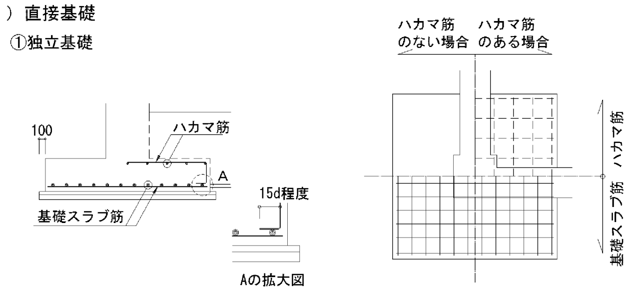
5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎

（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

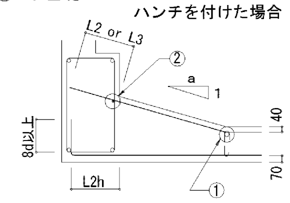
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

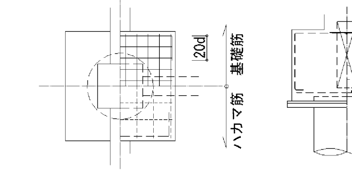
ハンチを付けた場合（ａ≧3）



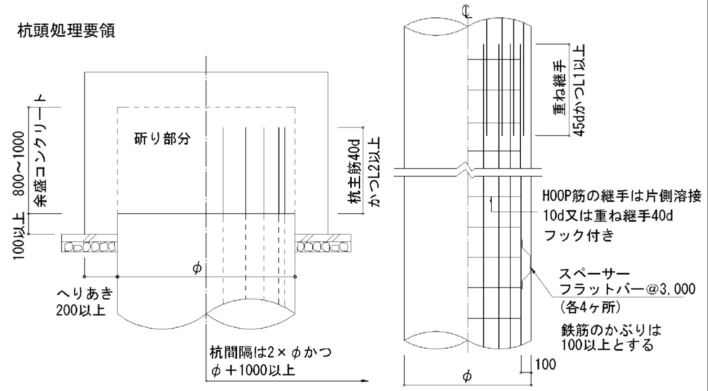
1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3．② の鉄筋はＤ13以上
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

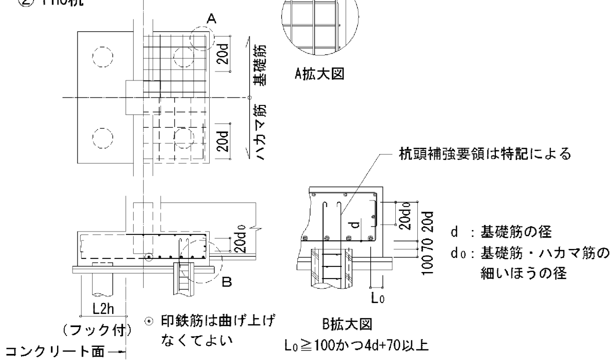
① 場所打ち杭



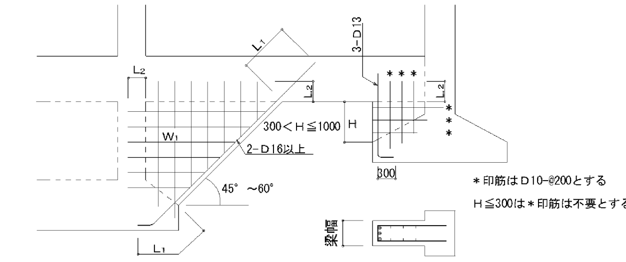
杭頭処理要領



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



Ｗ1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
ＴＥＬ 055（226）6770番（代）
ＦＡＸ 055（226）6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail ： info@amemiya-sekkei.com

管理建築士 | 検図者 | 設計者 | 担当者 | 作製

名称：緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)　縮尺 －(A1) －(A3)

図面番号 No. S 3

★★ 平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

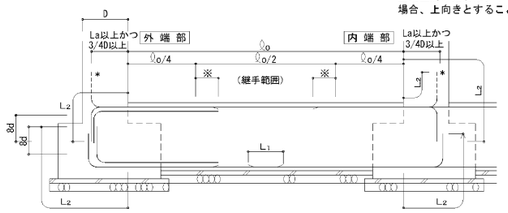
新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

４．地中梁

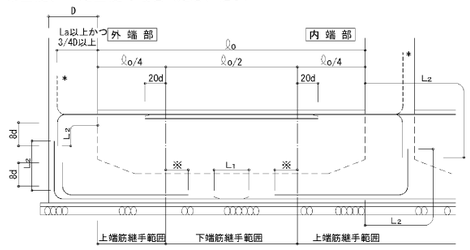
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は6.（2）大梁継手位置とする。）　＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



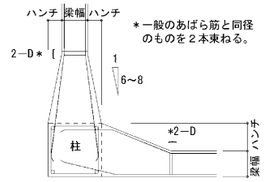
※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

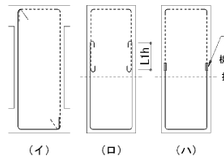


※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

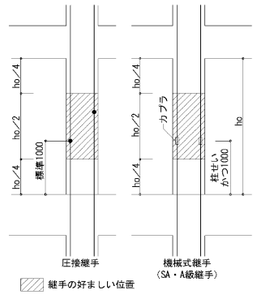


［注］（イ）で、 を使用してよいが、 は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

５．柱

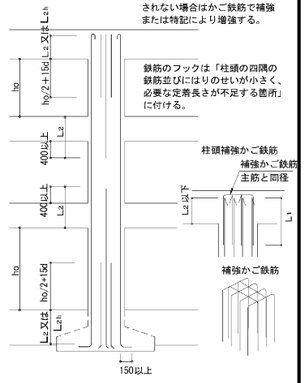
（１）柱主筋の継手位置



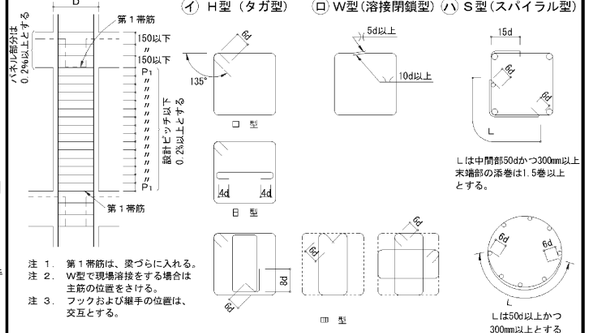
（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

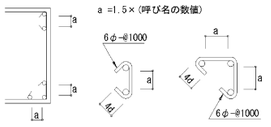


（３）帯　筋

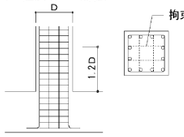


注１．　第１帯筋は、変づらに入れる。
注２．　W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注３．　フックおよび継手の位置は、交互とする。

（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。

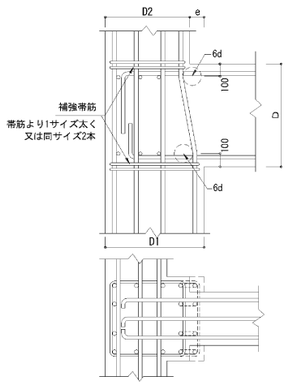
拘束筋は以下による。

□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ

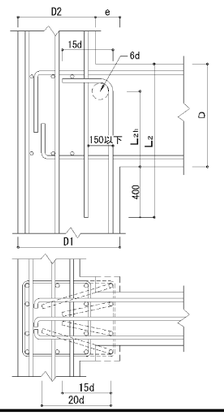
□図示による

（６）絞り

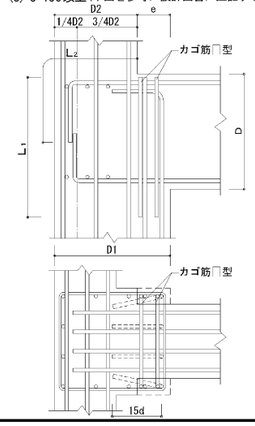
(a) e≦D/6かつ150



(b) 150≧e＞D/6



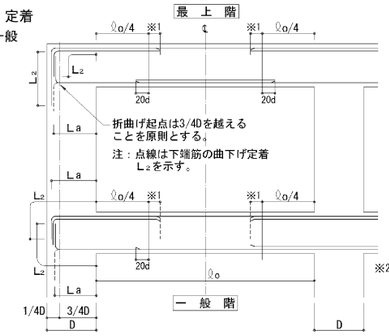
(c) e=150以上（下図を参考に設計図書に追記する。）



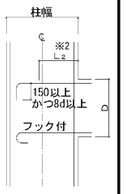
６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



柱幅が大きい場合



※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

※1 主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

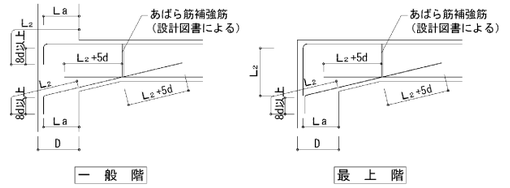
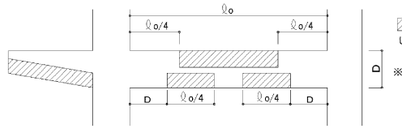


表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

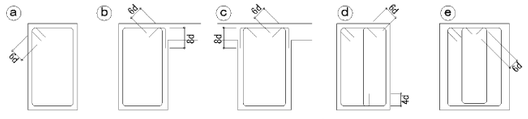
部材名	lo/4 に加える長さ	部材名	lo/4 に加える長さ

（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置

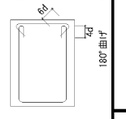
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ 、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。

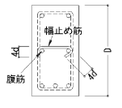
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



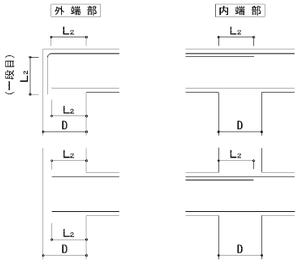
（５）幅止め筋の本数、加工

腹筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2－D10　1段
	900≦D＜1200	4－D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

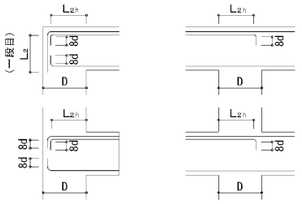


（６）梁主筋の定着

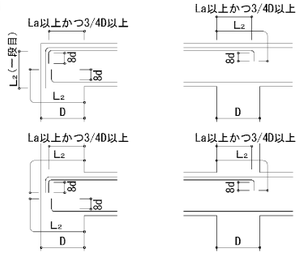
① 直線定着



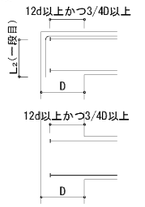
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

株式会社　雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7　TEL 055（226）6770番（代）　FAX 055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘要	月日				管理建築士	検図者	設計者	担当者	名称	緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事	図面番号
									作製	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	No. S 4
										縮尺 － (A1) － (A3)	

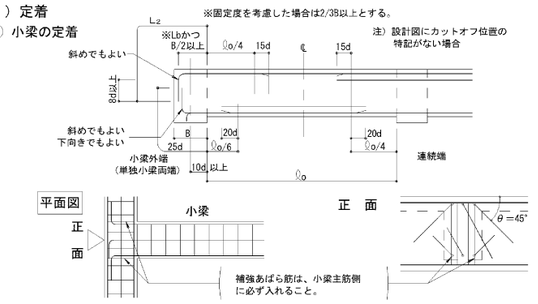
★★ 平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

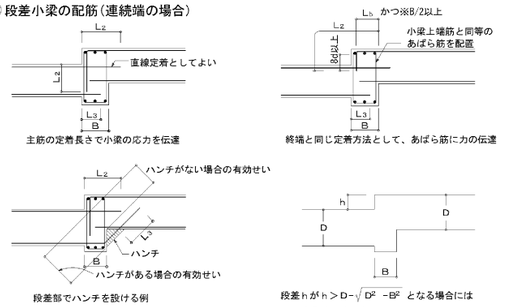
７．小梁、片持梁

（１）定着

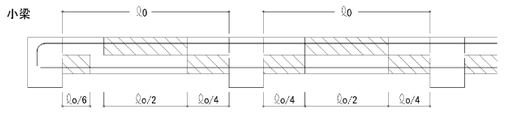
ⓐ 小梁の定着



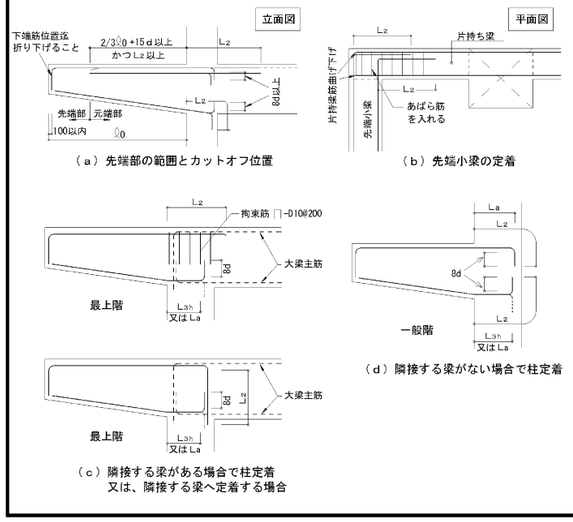
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ 小梁筋の継手位置



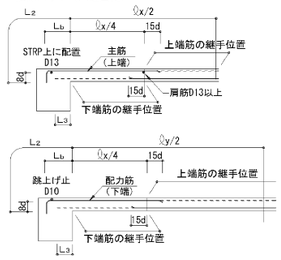
ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



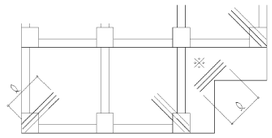
８．床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

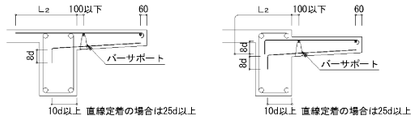


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ0=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

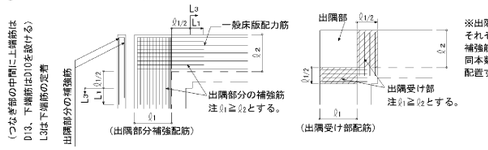
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

ⓐ 片持床スラブ定着

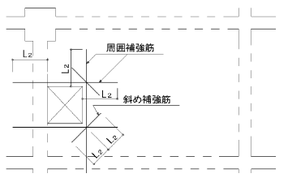


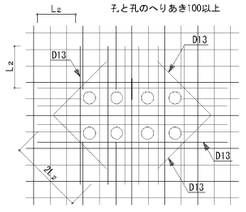
ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

（４）床版開口部の補強（開口の径500以下程度の場合）

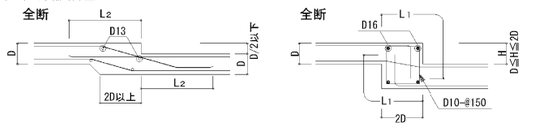




床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦１５０	各２－Ｄ１３	各１－Ｄ１３
１５０＜D≦３００	各２－Ｄ１３	各２－Ｄ１３
３００＜D≦５００	各２－Ｄ１９	各２－Ｄ１６

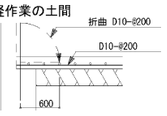
注）設備の小口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（５）床版段差

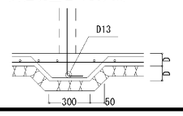


（６）土間コンクリート

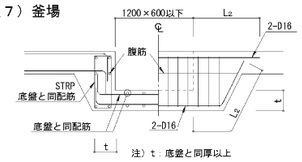
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（７）釜場



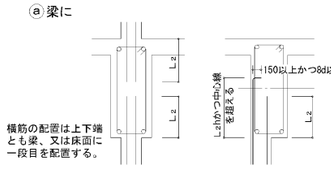
（８）打継ぎ補強（ダメ穴打断面について）

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ２Ｌ1以上
- 無筋部分D10−@200　長さ800以上

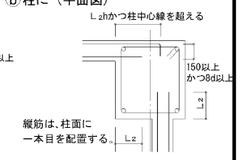
９．壁

（１）定着

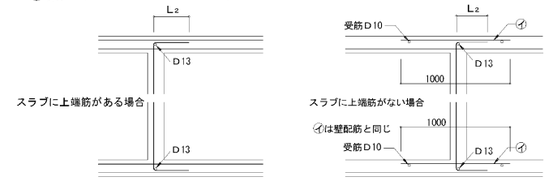
ⓐ 梁に



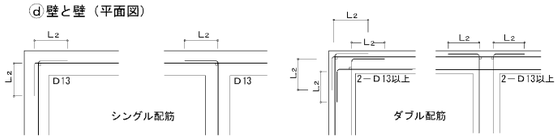
ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



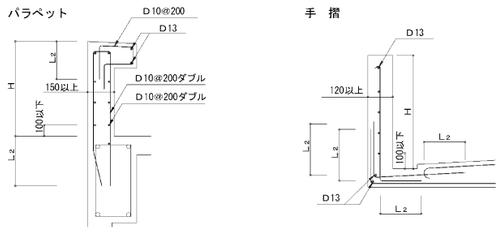
ⓓ 壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット

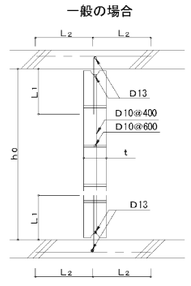
（３）手摺、パラペット



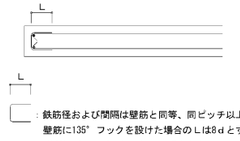
（但し、Ｈ＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



（５）耐震壁端部の納まり

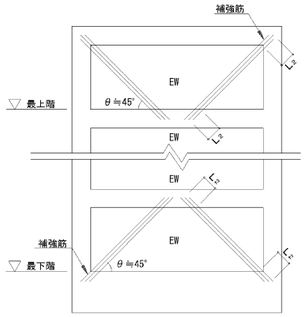


注）ｈｏ≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く

注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400

注）継手部は必ずモルタルを充填すること

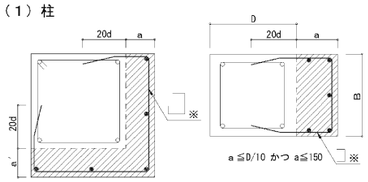
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3−D13@100シングル
EW180～200の場合4−D13@100シングル
EW250以上の場合4−D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



- ハッチ部分は増打コンクリートを示す
- ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋	
A＜500	500≦A＜1000
3−D16	4−D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

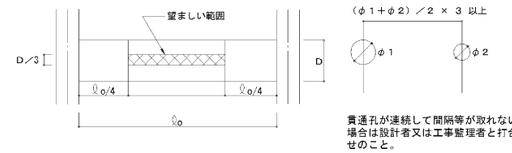
（２）梁

- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

□製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7　ＴＥＬ　055（226）6770番（代）　ＦＡＸ　055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail ： info@amemiya-sekkei.com

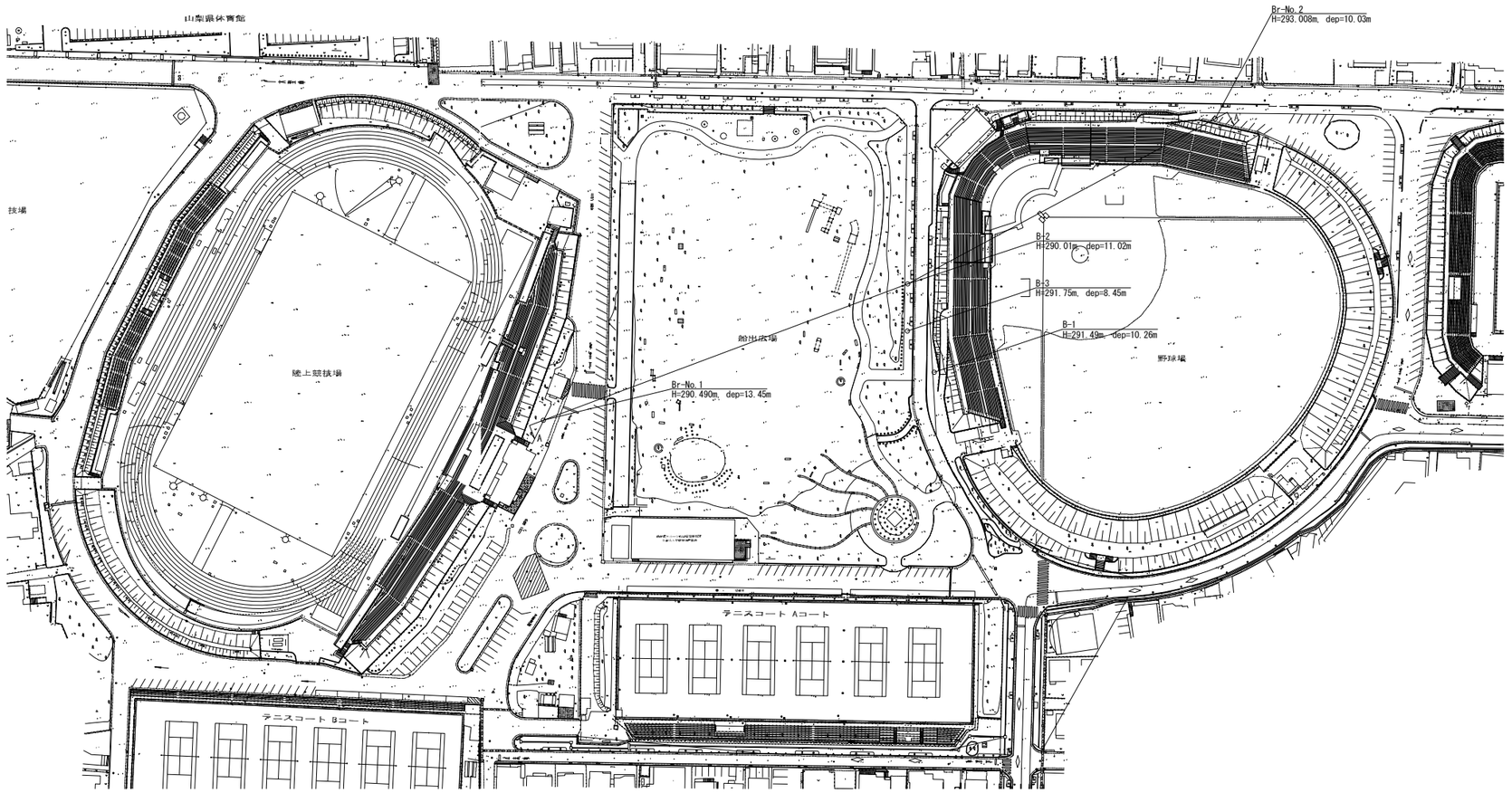
摘要	月日			

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

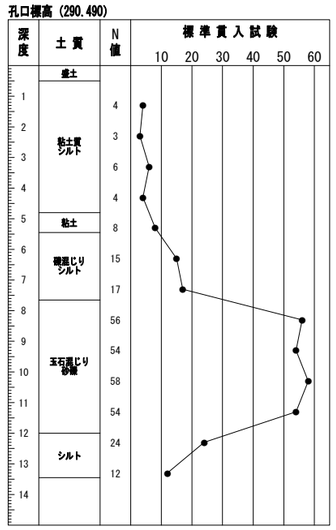
名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)　縮尺　－　(A1)　－　(A3)

図面番号　No. S　5

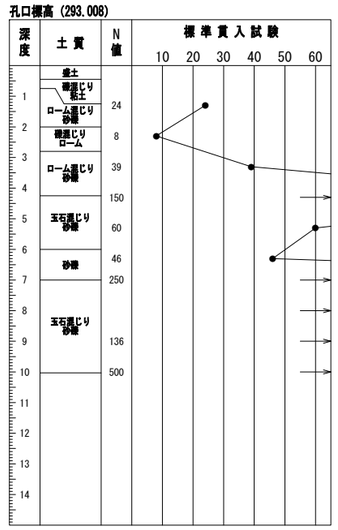


孔口標高 (290.490)



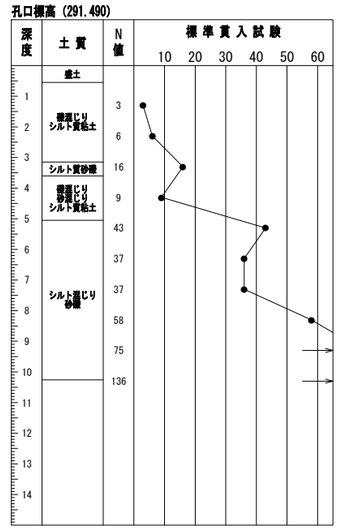
柱状図 Br-No.1

孔口標高 (293.008)



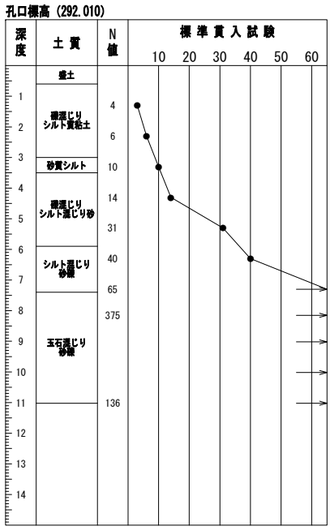
柱状図 Br-No.2

孔口標高 (291.490)



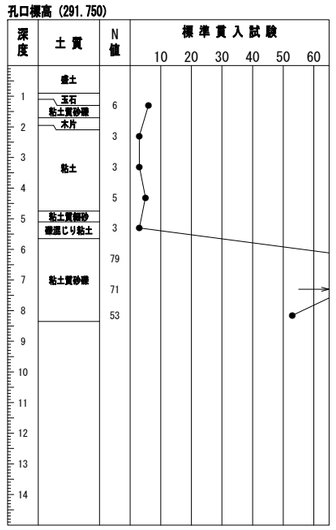
柱状図 B-1

孔口標高 (292.010)



柱状図 B-2

孔口標高 (291.750)



柱状図 B-3

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

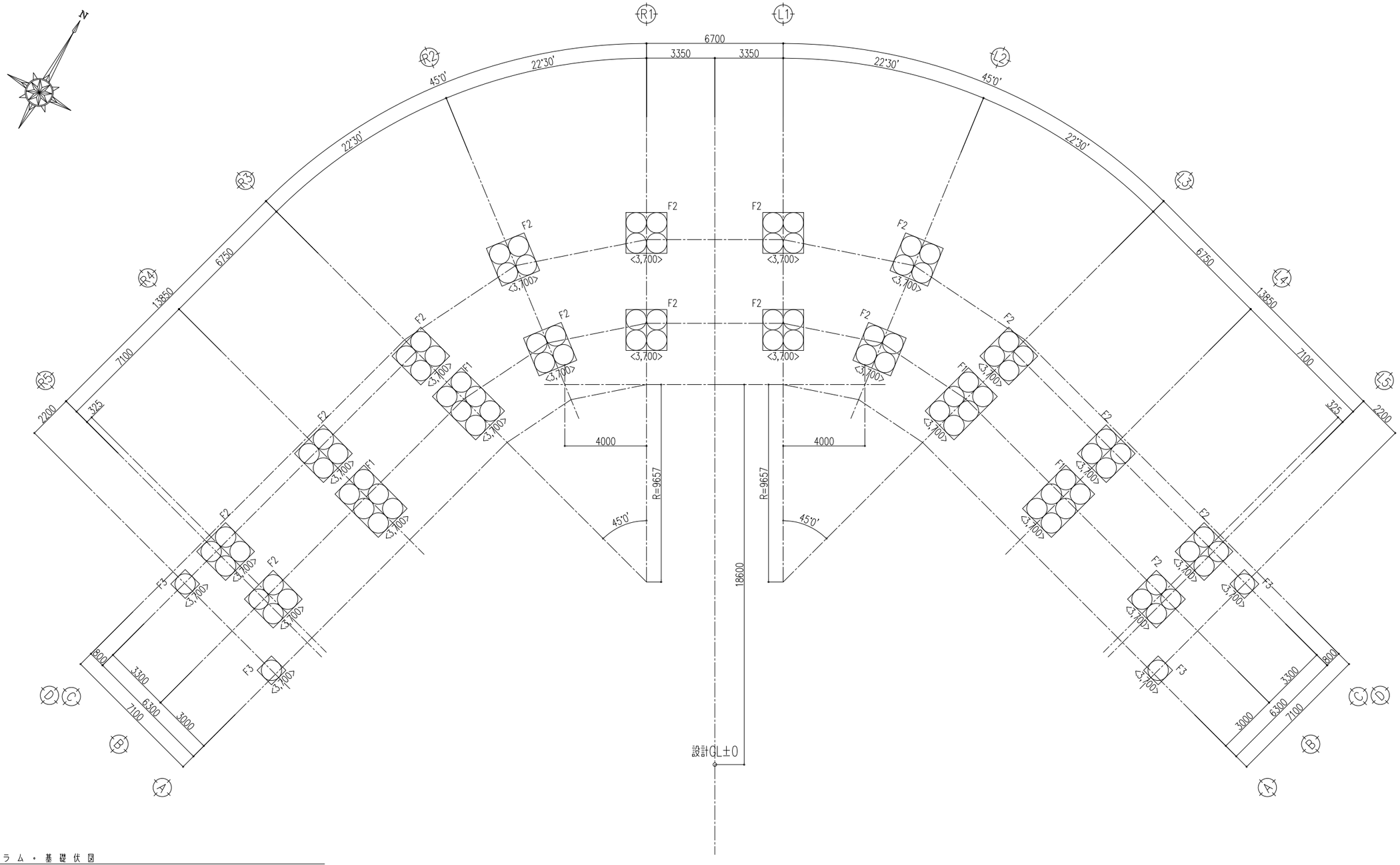
管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

地盤調査図

縮尺 - (A1)
- (A3)

図面番号 No. S 6



改良コラム・基礎伏図 S=1:100

改 良 コ ラ ム ・ 基 礎 伏 図

特記を除き　基礎下端レベル　設計GL−1,500

基礎下端から支持層までを柱状改良とする（深層混合処理工法：テノコラム工法）

改良コラム径　φ1000

長期許容支持力　300kN/m²

< > は設計改良長さを示す

摘　要	月　日			

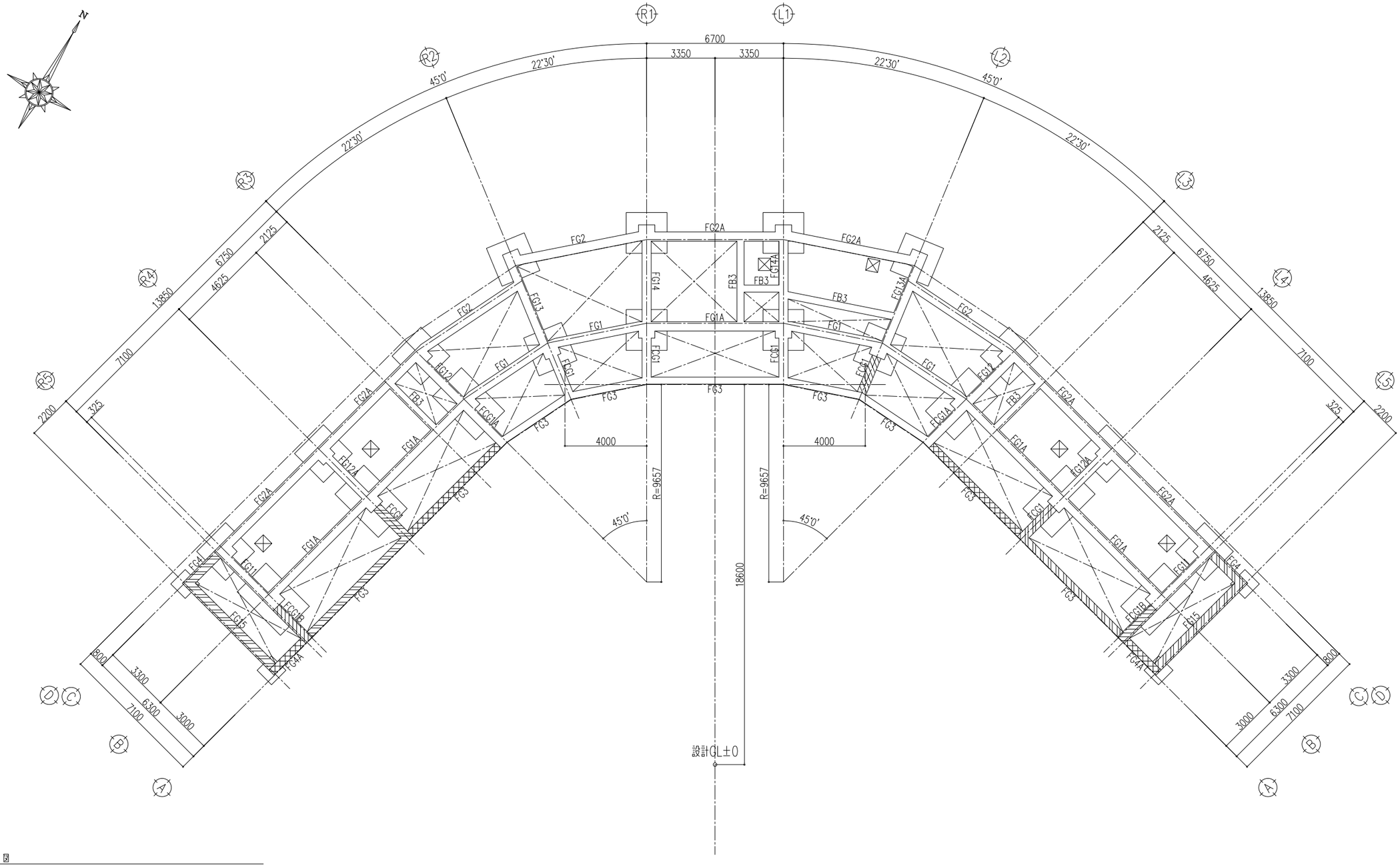
株式会社　雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL　055（226）6770番（代）
FAX　055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

改 良 コ ラ ム 配 置 図　　縮尺 1:100（A1）1:200（A3）

図面番号　No. S 7



ピット図　　S=1:100

ピット図

特記を除き　スラブ符号 FS1

スラブ天端レベル 1FL−1,200

梁天端レベル □ 1FL−200

▨ 1FL−300

▨ 1FL−350

▨ 1FL−500

☒印は釜場を示す

▨ 部分は埋め戻しとする

摘要	月日			

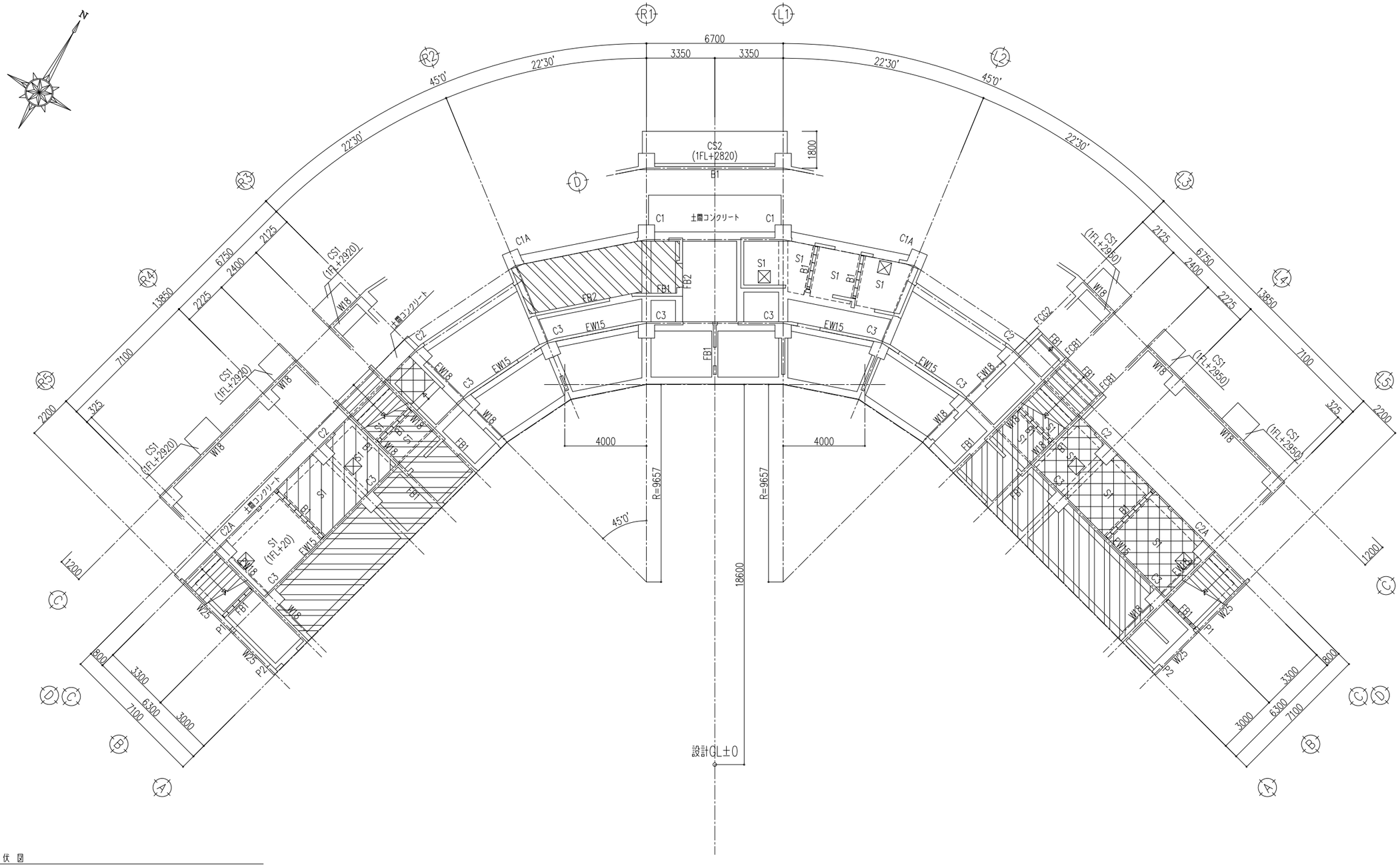
株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

基礎伏図　　縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号 No. S 8



1階床伏図　　S=1:100

1 階 床 伏 図

特記を除き　壁符号　W15

スラブ符号　DS1

スラブ天端レベル　1FL±0

1FL−100

1FL+170

1FL+200

□□□□ 部分はCB15を示す

▽印は構造スリットを示す

⊠印はスラブ開口を示す

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

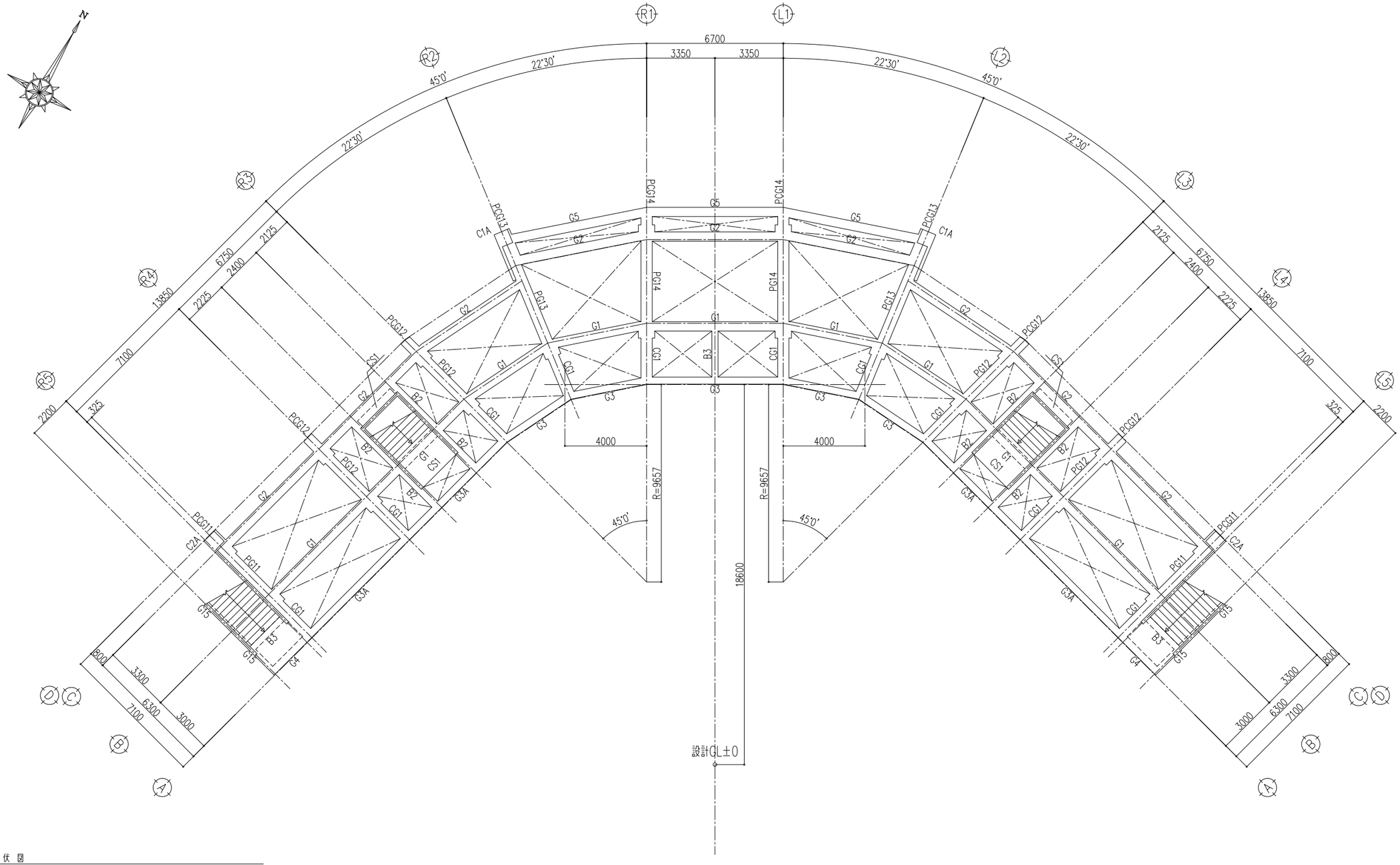
管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

1 階 床 伏 図　　縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号　No. S 9



R 階 床 伏 図

特記を除き　壁符号 W15

スラブ符号 S1

R階床伏図　S=1:100

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

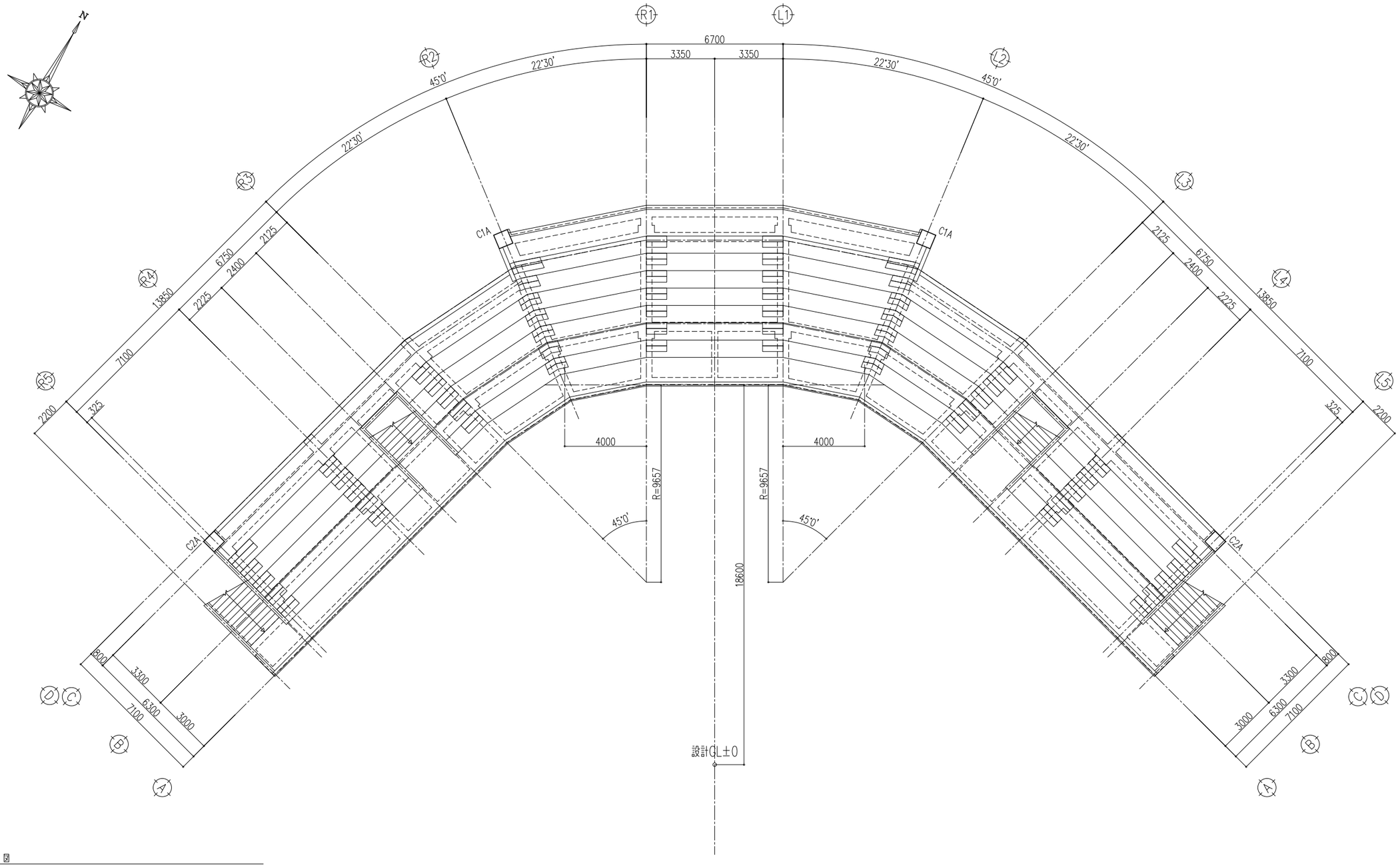
管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

R 階 床 伏 図　縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号 No. S 10



屋根伏図　S=1:100

屋根伏図
特記を除き

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

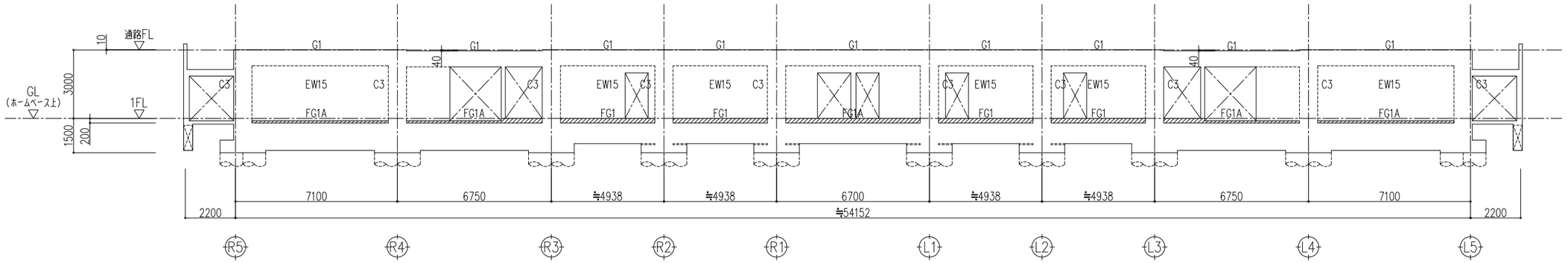
屋根伏図　縮尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号 No. S 11

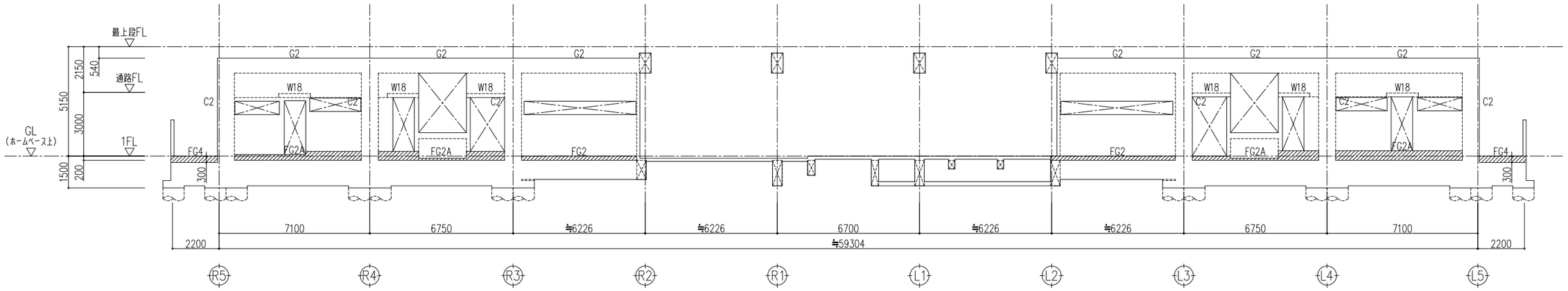
軸 組 図 (1)

特記を除き　壁符号 W15

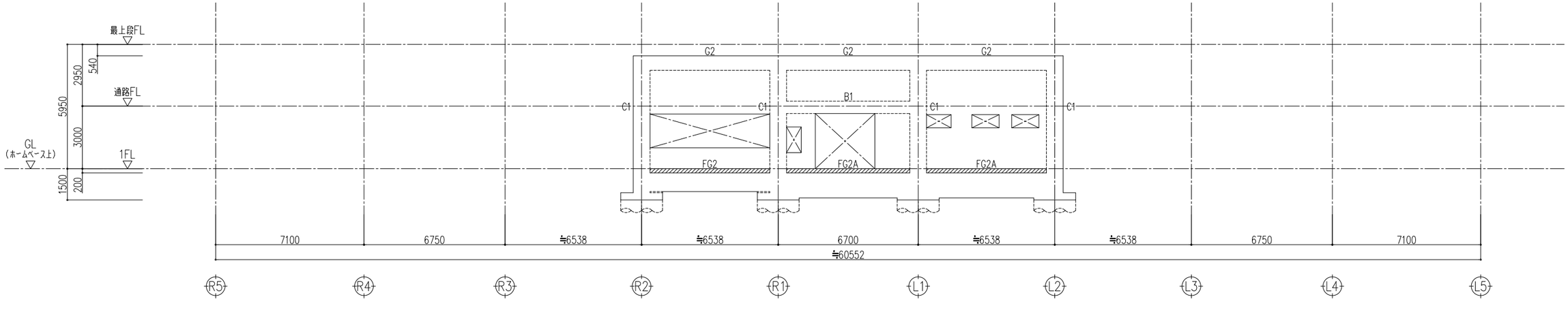
▨ 部分は梁フカシを示す



B通り軸組図　　S=1:100



C通り軸組図　　S=1:100



D通り軸組図　　S=1:100

摘　要	月　日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

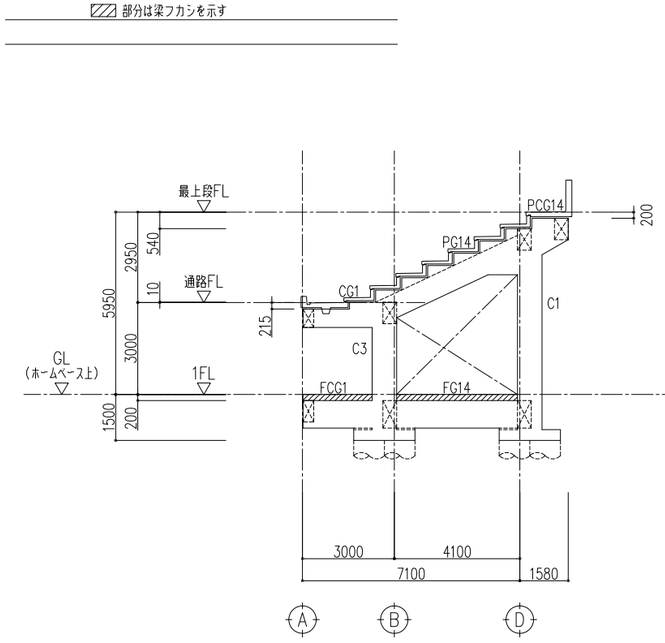
軸 組 図 (1)　　縮 尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号 No. S 12

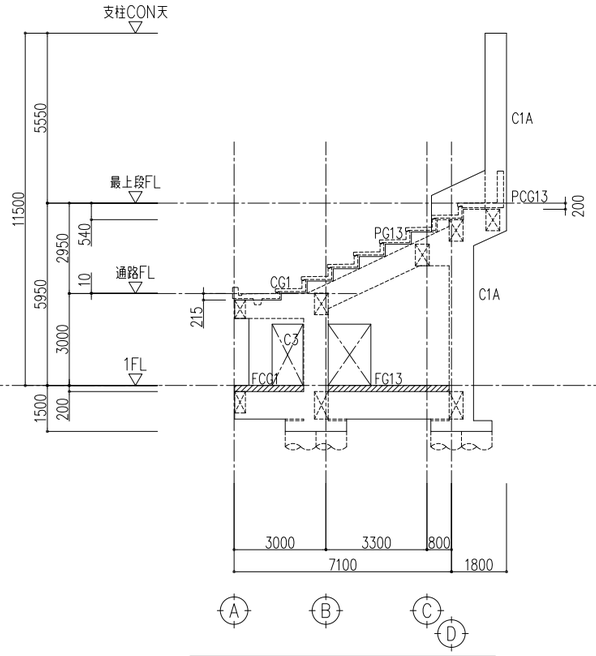
軸 組 図 (2)

特記を除き　壁符号　W15

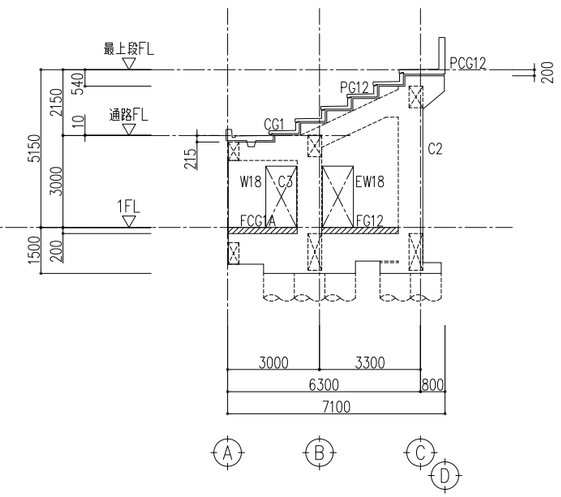
▨ 部分は梁フカシを示す



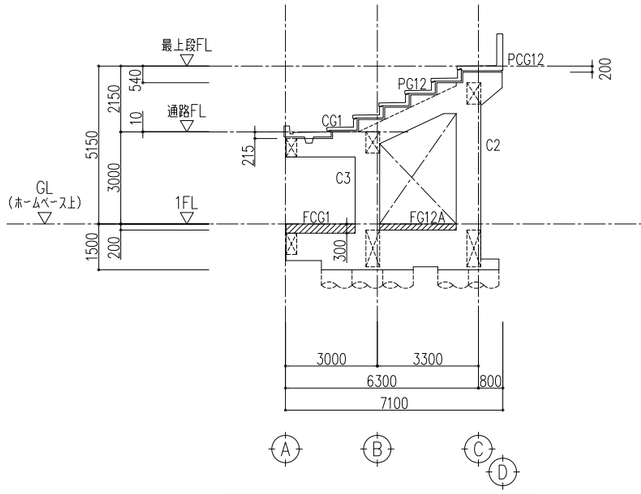
R1通り軸組図　S=1:100



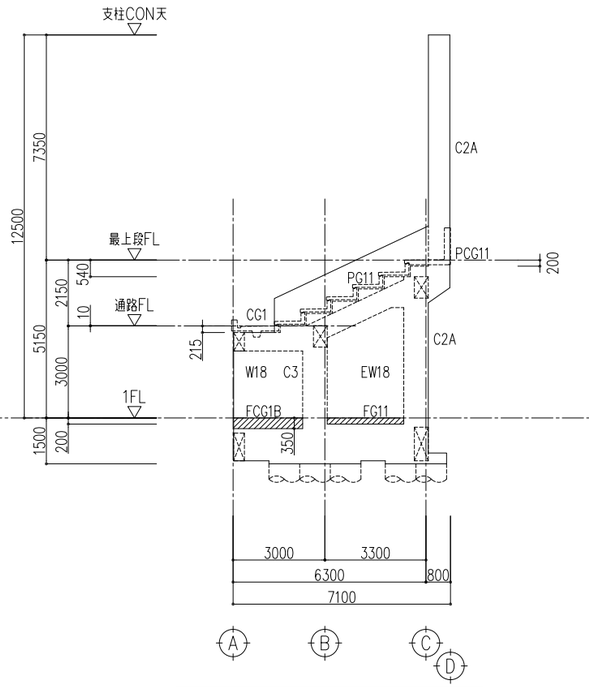
R2通り軸組図　S=1:100



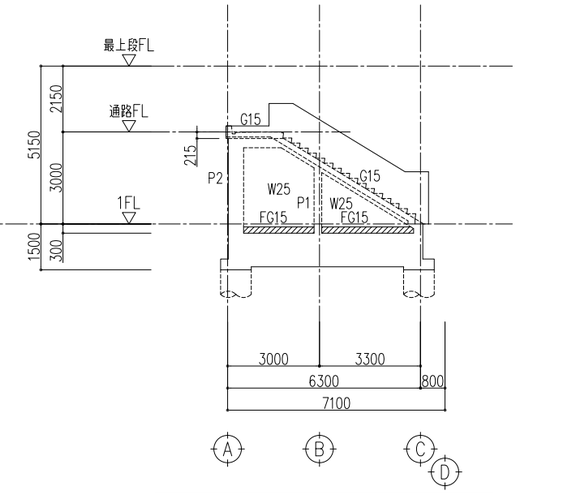
R3通り軸組図　S=1:100



R4通り軸組図　S=1:100



R5通り軸組図　S=1:100



R5+2,200通り軸組図　S=1:100

摘　要	月　日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

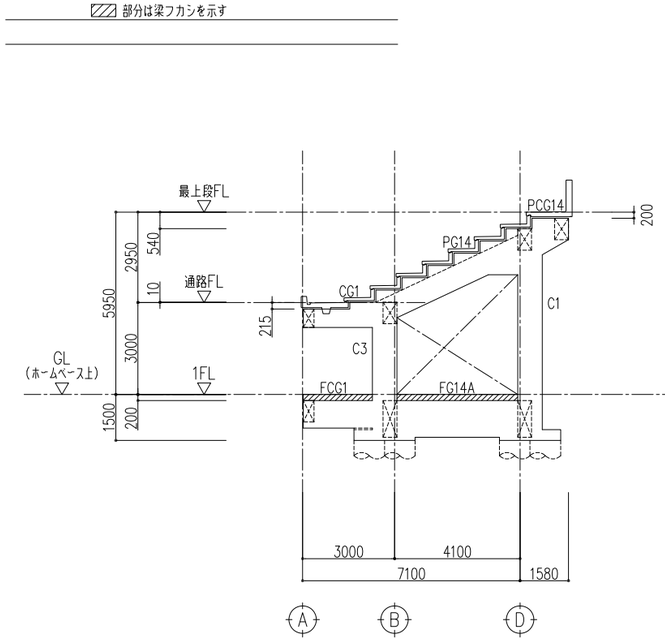
軸 組 図 (2)　縮 尺 1:100 (A1) 1:200 (A3)

図面番号 No. S 13

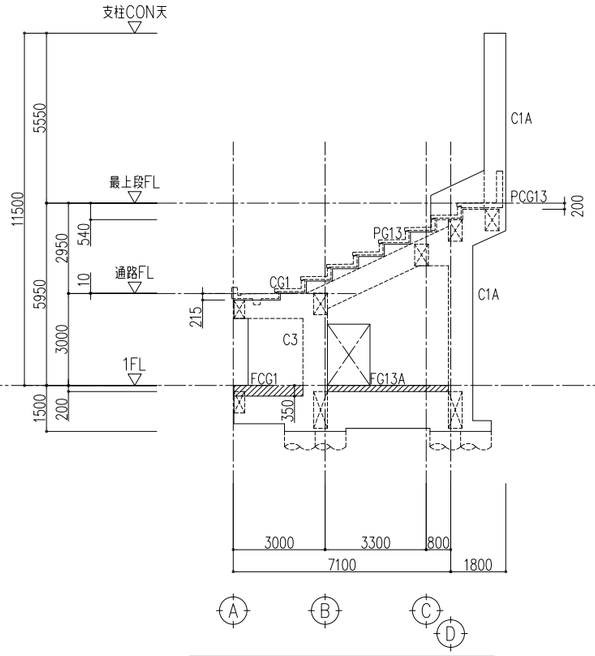
軸 組 図 (3)

特記を除き　壁符号　W15

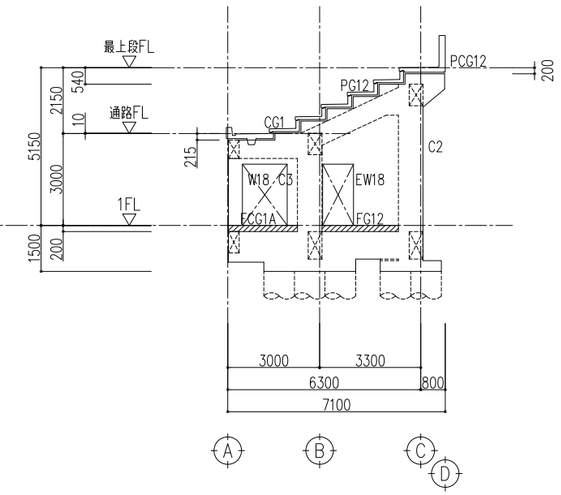
▨ 部分は梁フカシを示す



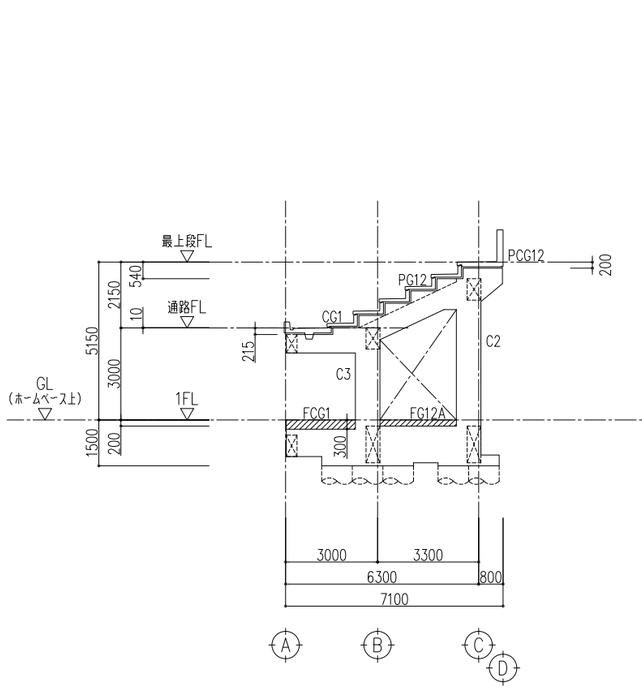
L1通り軸組図　S=1:100



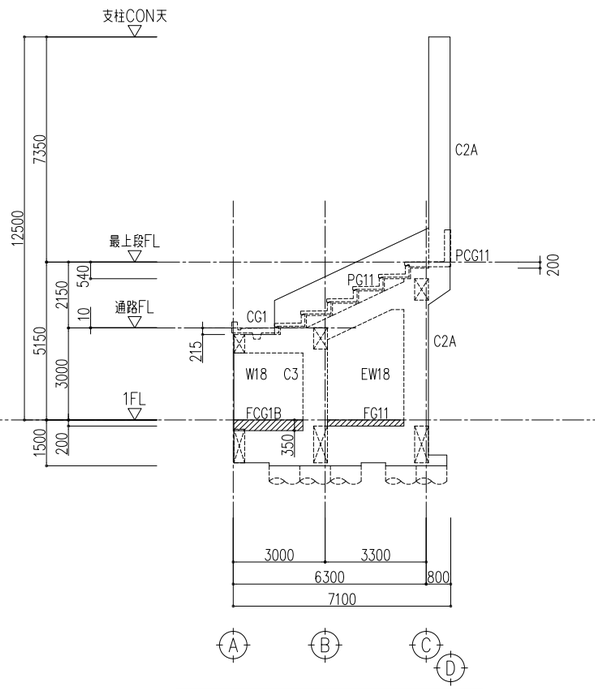
L2通り軸組図　S=1:100



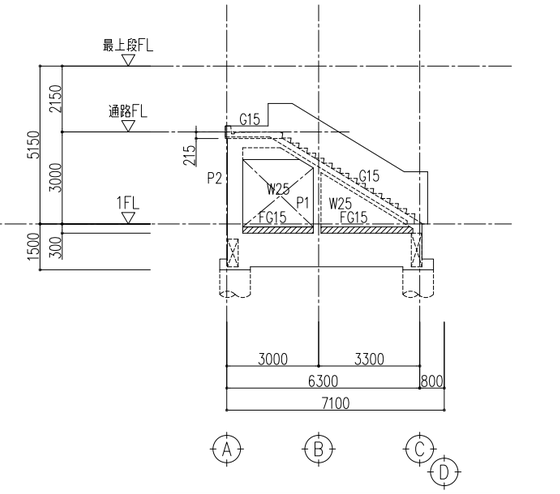
L3通り軸組図　S=1:100



L4通り軸組図　S=1:100



L5通り軸組図　S=1:100



L5+2,200通り軸組図　S=1:100

摘　要	月　日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

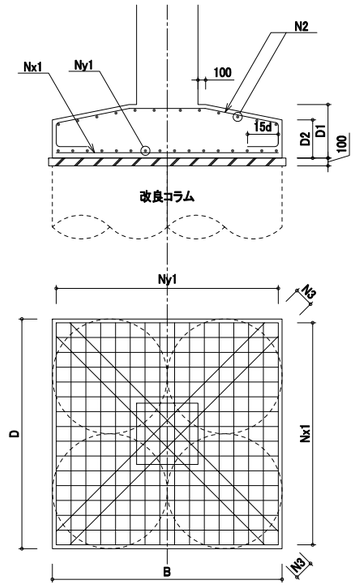
名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

軸 組 図 (3)

縮尺　1:100 (A1)　1:200 (A3)

図面番号　No. S 14

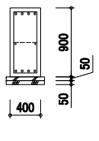
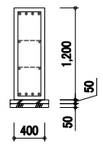
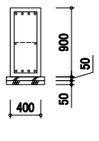
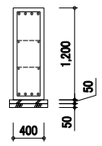
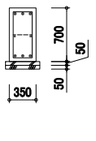
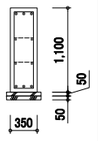
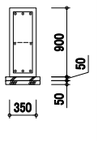
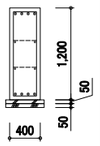
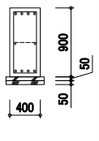
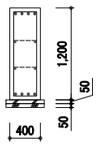
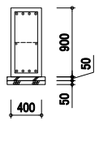
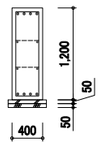
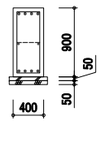
基礎盤リスト

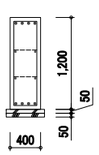
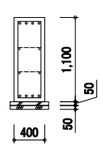


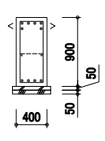
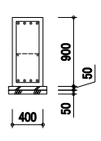
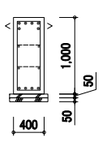
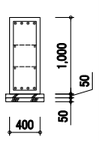
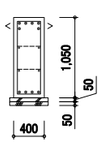
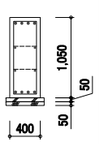
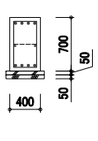
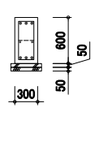
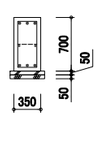
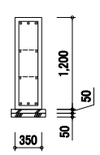
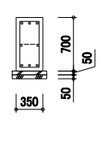
符 号	基 礎 幅		厚 さ		配 筋			
	B	D	D1	D2	Nx1	Ny1	N2	N3
F1	2000	3000	550	550	16-D19	11-D22	D13@250	2-D16
F2	2000	2000	350	350	11-D19	11-D19	D13@250	2-D16
F3	1000	1000	250	250	6-D16	6-D16	D13@250	2-D16

地中梁リスト　S=1:40

特記を除き　幅止め筋　D10-@1,000
＜ 印は二段筋を示す

符 号	FG1	FG1A	FG2	FG2A	FG3	FG4	FG4A	FG11	FG12	FG12A	FG13	FG13A	FG14
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面													
上 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200
腹 筋	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	2-D10
備 考													

符 号	FG14A	FG15
位 置	全断面	全断面
断 面		
上 端 筋	4-D25	4-D25
下 端 筋	4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13-@200	2-D13-@200
腹 筋	4-D10	2-D10
備 考		

符 号	FCG1		FCG1A		FCG1B		FCG2	FB1	FB2	FB3	FCB1
位 置	基端	先端	基端	先端	基端	先端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面											
上 端 筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	3-D25	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
下 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
スターラップ	2-D13-@200		2-D13-@200		2-D13-@200		2-D13-@200	2-D10-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200
腹 筋	2-D10		4-D10		4-D10		2-D10	2-D10	2-D10	4-D10	2-D10
備 考											

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7　TEL 055 (226) 6770番(代)　FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘要 | 月日

管理建築士 | 検図者 | 設計者 | 担当者

作製

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

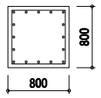
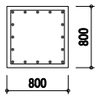
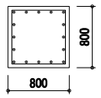
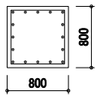
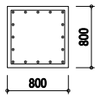
部材リスト (1)

縮尺 1:40 (A1) 1:80 (A3)

図面番号 No. S 15

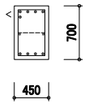
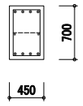
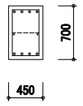
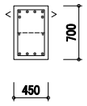
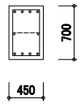
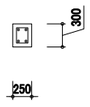
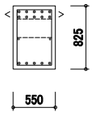
柱リスト　S=1:40

特記を除き　仕口内フープは、柱フープと同径で@100とする

符 号	C1	C1A	C2	C2A	C3	P1	P2
R階 断 面							
主 筋		16-D29		16-D29			
フープ		□-D13-@100		□-D13-@100			
備 考							
1階 断 面							
主 筋	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	4-D19	8-D25
フープ	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
備 考							

大梁リスト　S=1:40

特記を除き　幅止め筋　D10-@1,000
＜ 印は二段筋を示す

符 号	G1		G2	G3	G3A	G4	G5		G15	CG1	
位 置	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面	基端	先端
R階 断 面											
上 端 筋	5-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	2-D25	10-D29	5-D29
下 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	2-D25	5-D29	5-D29
スターラップ	2-D13-@200		2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200	2-D13-@200		2-D13-@200	2-D13-@100	
腹 筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		――	2-D10	
備 考											

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘 要	月 日			

管理建築士 | 検図者 | 設計者 | 担当者
作 製

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

部 材 リ ス ト (2)　縮 尺 1:40 (A1) 1:80 (A3)

図面番号　No. S 16

小梁リスト　S=1:40

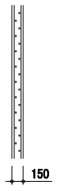
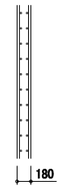
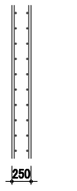
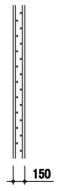
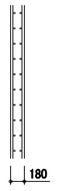
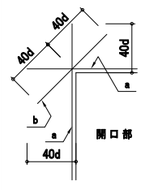
特記を除き　幅止め筋　D10-@1,000
＜ 印は二段筋を示す

符 号	B1	B2	B3	BA
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
上 端 筋	3-D19	3-D19	3-D19	2-D16
下 端 筋	3-D19	3-D19	3-D19	2-D16
スターラップ	2-D10-@200	2-D13-@200	2-D10-@200	2-D10-@200
腹 筋	――	――	――	――
備 考				

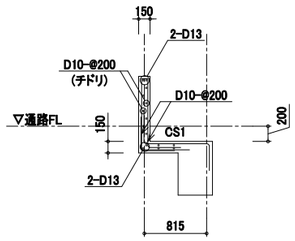
スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	配 筋		備 考
			短辺方向(主筋)	長辺方向(配力筋)	
S1	150	上 端 筋	D10･D13-@200	D10･D13-@250	
		下 端 筋	D10-@200	D10-@250	
DS1	150	上 端 筋	D10-200	D10-200	土間コンクリートスラブ
		下 端 筋	――	――	地業 150
FS1	200	上 端 筋	D13-@200	D13-@200	捨てコン 50 ＋ 地業 50
		下 端 筋	D13-@200	D13-@200	
CS1	150	上 端 筋	D13-@200	D10-@250	
		下 端 筋	D10-@200	D10-@250	
CS2	180～150	上 端 筋	D13-@200	D10-@250	
		下 端 筋	D10-@200	D10-@250	

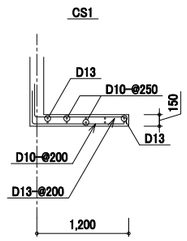
壁リスト　S=1:40

符 号	CB15	W15	W18	W25	EW15	EW18	開口補強筋
断 面	シングル	チドリ 	ダブル 	ダブル 	チドリ 	ダブル 	
縦 筋	D10-@400	D10-@200	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D13-@200	――
横 筋	D10-@400	D10-@200	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D13-@200	――
開口補強筋	1-D13	2-D13	2-D16	2-D16	4-D16	6-D16	a
斜め補強筋	――	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	b
備 考							

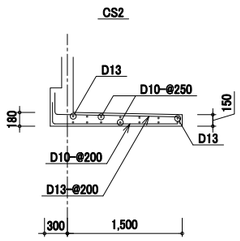
雑配筋要領図　S=1:40



屋外階段(1)，(2)上部腰壁
その他手摺

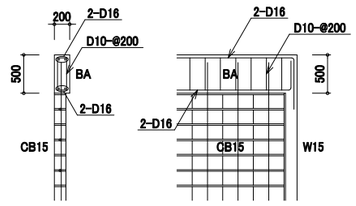


庇　便所

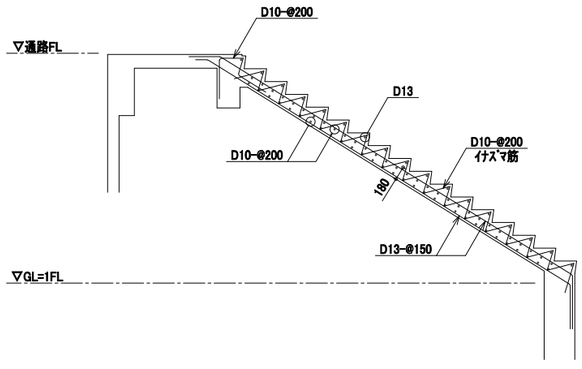


庇　エントランスホール

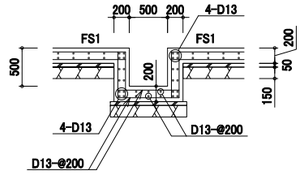
臥梁配筋要領図　S=1:40



階段配筋要領図　S=1:40



釜場配筋要領図　S=1:40



釜場

摘 要	月 日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

部 材 リ ス ト (3)　縮 尺 1:40 (A1) 1:80 (A3)

図面番号 No. S 17

柱状改良地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、柱状改良工法による地盤改良地業である。柱状改良工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した撹拌装置を用いて、原地盤土と機械的に撹拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）(ベターリビング)および「建築工事標準仕様書・同解説 JASS４ 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会)による。

3. 特記事項

(1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
(2) コラムの設計基準強度はＦｃ＝ 1200 kN/m2（ 1.2 N/mm2)とする。
(3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
(4) 本工事工法は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

4. 施工計画

(1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。
(2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

① 工事件名及び工事場所
② コラム仕様及び数量
〔コラム径・掘削深度（設計コラム長＋空掘長）・本数
・設計基準強度 〕
③ 工事期間及び工程
④ 工事の組織(建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者)
⑤ 施工手順
⑥ 施工機器
⑦ 固化材配合条件
⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録）
⑨ 品質検査
⑩ 安全衛生対策
⑪ 地盤概要（土質柱状図）
⑫ コラム伏図
⑬ 技術審査証明書（写）

5. 施工

(1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
(2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
ａ．撹拌混合装置をコラム心に合わせる。
ｂ．固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
ｃ．固化材液を吐出しながら掘進・撹拌混合する。
ｄ．注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
ｅ．先端練り返し工程が終了したら、撹拌軸を逆回転し引上げ撹拌混合する。
(3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
(4) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

(1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に撹拌混合できる撹拌装置を用いること。
(2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
(3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
(4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

(1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
(2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、９項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

Ｘｆ＝α×Ｆｃ　［α：割り増し係数、Ｘｆ：配合強度］

(3) 室内配合試験
固化材液の配合（Ｗ／Ｃ）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

8. 施工管理

(1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

①形状・寸法	：鉛直性	改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
	コラム心	事前にコラム心にマークを設ける
	掘削深度	深度計で計測し記録する
	コラム径	撹拌装置の形状・寸法を記録する
②固化材	：材料計量	水、固化材の重量
	固化材液の密度	マッドバランス等
	固化材液の添加量	スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する
③撹拌混合度	：撹拌混合回数	スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する
④支持地盤	：仕事量	スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する
	（着底判定仕事量は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する）	

(2) コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
(3) 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者(請負業者の中から選定)及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数
① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
② 検査対象層は ローム , 粘性土 , 砂質土 であり、設計対象層を ローム とする。
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、
最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
③ 調査箇所数
頭部コア　100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所
深度コア　100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所
(2)コア採取率による調査
コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。
(3) 合否の判定
① 設計対象層についての抜取箇所数をＮとする。1ヶ所あたりは３個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Ａによる。
④ 検査手法Ａによる品質検査
合否の判定は検査対象層におけるＮヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$\overline{X}N \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma$

$\overline{X}N$： Ｎヶ所の一軸圧縮強度の平均値(N/mm2 ,kN/m2)
XL： 合格判定値(N/mm2 ,kN/m2)
Ｆｃ： 設計基準強度(N/mm2 ,kN/m2)
ｋａ： 合格判定係数
σ ： 標準偏差(N/mm2 ,kN/m2) $= v \cdot \overline{q}ud$　（ｖ ：変動係数、品質確認書により想定する
$\overline{q}ud$：想定した平均一軸圧縮強さ(N/mm2 ,kN/m2) ）

抜き取りヶ所数Ｎ	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に３部提出する。

① コラムの伏図及び番号
② コラムの施工日
③ コラムの径及び実施コラム長
④ 掘削深度
⑤ 撹拌混合回数
⑥ 仕事量
⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量
⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率
⑨ 合否判定結果

11. その他

施工に当たっては、セメント系固化材からの六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講じること。試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）の一部変更について」による。

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7　ＴＥＬ 055 (226) 6770番(代)　ＦＡＸ 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事
柱状改良地業特記仕様書　縮尺 － (A1) － (A3)

図面番号 No. S 18

プレキャストコンクリート工事特記仕様書

1．総則　本仕様書は、段架・段床（以下PC板という）及びこれに付随する部分について適用する。

（1）適用範囲　本仕様書並びに設計図書に示されていない事項については、下記による。

・『建築物の構造関係技術基準書』	2015年度版	同左編集委員会
・『プレストレストコンクリート造設計技術基準解説及び設計・計算例』	2009年度版	同左編集委員会
・『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』	1998年度版	日本建築学会
・『建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事』	2018年度版	日本建築学会
・『建築工事標準仕様書・同解説（JASS10）プレキャストコンクリート工事』	2013年度版	日本建築学会
・『鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説』	2021年度版	日本建築学会
・『鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説』	2010年度版	日本建築学会

又、更にこれらに指示されていない事項は係員の指示による。

（2）プレストレス導入方式　PC段床版のプレストレス導入方式は、
A,C TYPE　…プレテンション方式、
B　TYPE　…ポストテンション方式、とする。

（3）製作要領　PC版の製作にあたっては事前に調合計画、製造方法、養生方法等を検討し、「製作要領書」を係員に提出して、その承諾を受けた後に製作を行うこと。 又、使用材料のミルシートを提出する。

（4）施工計画　施工の順序、方法、工程等の施工計画は、工事着手前によく検討し、「施工計画書」を係員に提出して、その承諾を受けた後に施工を行うこと。

2．材料

（1）鉄　筋　鉄筋は、JIS G 3112 の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いた鉄筋格子を使用する。

（2）PC鋼材　PC鋼材は、JIS G 3536、PC鋼棒は、JIS G 3109に適合し、有害な傷のないものを使用する。

名　称		PC段床 SWPR7BL−12.7mm	PC段床 SWPR7BL−17.8mm（アンボンドケーブル）
引張荷重（kN）	Pu	183 以上	387 以上
降伏荷重（kN）	Py	156 以上	330 以上
許容引張荷重（kN）	導入時	132.6	281
	定着時	124.8	264
端部作業時緊張力（kN）	Po	124.8 ※1	264

※アンボンドケーブルは、CCL工法同等品とする。
作業中やむを得ない場合は、一時的に0．9Pyまで許容するものとする。
※1 は導入力を示す。

（3）セメント　セメントは、JIS R 5210 に適合した普通ポルトランドセメント又は、早強ポルトランドセメントを用いる。

（4）コンクリート　コンクリートの品質は次の通りとする。

部　材	PC段床	PC段梁
設計基準強度	50N/mm²	30N/mm²
ストレス導入時圧縮強度	36N/mm²	―――
粗骨材最大寸法	20mm	
所要スランプ	12cm以下	

a．コンクリートの計画調合は、脱型時の特定材料圧縮強度、28日圧縮強度、材料および製造条件並びに加熱養生条件との組み合わせにより定め、計画調合表および計算書等の資料を係員に提出し承諾を得る。
b．コンクリートの計画調合と加熱条件の組み合わせは、外気温の季節変化に応じてそのつど修正を行う。
c．スランプは、JASS5 高強度コンクリートのスランプ23cm以下、またはスランプフロー60cm以下の規格も可能とする。

（5）ﾊﾟｯｷﾝ材　硬質ゴム系パッキン材を使用する。

（6）シーリング材　シーリング材は、変成シリコンとする。

（7）鋼材　仮接合用金物等の使用鋼材は、JIS G 3101 一般構造用熱間圧延鋼材2種（SS400）の規格に適合するものを使用する。

3．型枠
a．PC版の型枠は、高強度コンクリートを振動機を使用して打設するため強固な もので、原則として金属製型枠を使用するものとし、又コンクリートの打設に支障のないように造らなければならない。
b．型枠は、プレストレス導入時のひずみを拘束しない構造とする。
c．型枠に、剝離剤を使用する場合は鉄筋を配筋する前に塗布し、鉄筋等に付着しないようにする。剝離剤は、コンクリートの品質及び表面仕上材料の付着に影響を与えないものとする。

4．PC鋼材の取り扱い及び配置
a．PC鋼材は、直接地上に置くことを避け、倉庫内か又は、適当な覆いをして貯蔵する。
b．現場においてPC鋼材の加工組立を行う場合、加熱又は溶接を行ってはならない。
c．PC鋼材及び鉄筋は、所定の位置に正しく配置し、コンクリート打設作業中に狂いが生じないようにしなければならない。

5．コンクリートの打設
a．コンクリートの打設は、層状に端部より中央に打ち進み、間断なく作業しなければならない。
b．コンクリートの打設には、型枠振動機又は内部振動機を使用して、充分に締め固めなければならない。

6．プレストレッシング
a．プレストレスト導入方式並びに工法は、1−（2）による。
b．緊張装置
1）プレストレス導入に用いる緊張装置は、作業を安全に行えるものでなければならない。工法により専用の装置がある場合は、必ずそれを用いる。
2）荷重計または圧力計は、適時キャリブレーションを行い、常に正常な状態にあるように管理する。
c．応力導入の管理
1）PC鋼材は、特記及び設計図に示されている端部作業時緊張力が導入されるように緊張する。
2）PC鋼材に与える緊張力は、荷重計の示度およびPC鋼材の伸びより求め、いずれの方法による値も所定の緊張力の5％以上の差があってはならない。

7．蒸気養生
a．蒸気養生は、予め適当な時間と温度を定め係員に提出する。
b．蒸気養生温度は記録する。

8．脱型及び修正
a．脱型にあたっては、部材を破損しないように行う。
b．脱型した部材は、検査のうえ、破損のある場合施工計画書に従って直ちに補修する。

9．製品規格
a．製品の出荷時コンクリート強度は、原則として設計基準強度以上とする。但し、材令28日に於いて確実に設計基準強度以上に達すると推定し得る場合は、設計基準強度の90％の値とする。
b．製品寸法の許容誤差は、下表以下とする。（単位mm）

	長さ	幅	高さ
PC段梁	±10	±3	±3

	長さ	断面
PC段床	±7	+5，−3

c．製品は外観がよく、有害な傷、ひび割れ、ねじれ等の欠陥があってはならない。

10．試験及び検査
a．コンクリートのストレス導入時圧縮試験用の供試体の養生は、製作中のPC版と同一条件のもとで行う。
b．ストレス導入時の圧縮試験及び材令28日の圧縮試験は、それぞれ1回の打設につき、3体の供試験体について行い、その結果を記録し係員に報告する。
コンクリート強度試験用供試体の採取及び養生は下記の個数を標準とする。

	1日	7日	28日	合計
部材同一	3	3	3	9個
標準	−	−	3	3個

＊材齢7日の強度試験は、出荷時のコンクリート強度確認用とする。なお、出荷時強度確認のための試験材齢については、協議の上変えることができる。
c．工場製作部材の検査は、その材料（PC鋼材、鉄筋、コンクリート等）の品質、外観、寸法、形状検査を行い合否の決定をする。
d．外観、寸法、形状の検査は、全数について行い、9．の規定に適合すれば合格とする。
e．合格品は製品番号・製造工場名及び製造年月日等を記入した検査済印を表示する。

11．貯蔵及び出荷
a．PC部材の貯蔵は、汚れ、ねじれ破損等の生じないような支持台及びパッキン材により支持され、合格品と補修の要するものは別貯蔵する。
1）PC部材は、原則として、端部より500mm以内で支持する。
（プレテンション部材の場合）
b．出荷に際しては、下記の事項について注意する。
1）取付工事に支障をきたさぬようにする。
2）PC部材の運搬は、関係法規の定めるところによる。運搬は、部材に亀裂や破損が生じないよう養生を行い走行時には十分注意する。

12．搬入検査
a．現場に搬入されたPC部材について検査済印の確認及び運搬時に於ける破損の検査を行う。
b．構造上支障になる亀裂及び破損のある場合は、直ちに係員の指示に従う。
c．現場仮置は、11．に準する。

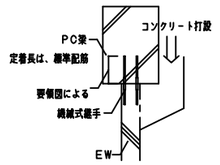
13．架設及び据え付け
a．架設に使用する機械、器具の種類及び配置架設方法、順序等、充分検討し、これらを前述の「施工計画書」に明記しなければならない。
b．PC版の据え付けは、所定の位置に正確に据え付けなければならない。

14．鉄筋継手

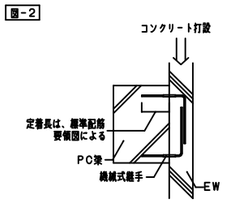
継手タイプ	等　級
端部ねじ加工継手	A　級
スリーブ継手	SA級

15．壁打設要領
a．プレキャストコンクリート梁の下部に取り付く壁及び間柱は、プレキャストコンクリート梁緊張後打設するものとし、図−1のような型枠を設け、プレキャストコンクリート梁下まで、コンクリートが十分埋まるよう打設する。又、プレキャストコンクリート梁下には、グラウト注入又は、エポキシ樹脂注入を行う。但し、スリットを設ける場合には、標準配筋要領図による。
b．現場打ち桁梁やEWの配筋をプレキャストコンクリート梁及び柱に定着させる場合には、図−1もしくは図−2のように、機械式継手を用い接合するものとする。 但し、差し筋も可。
（雑壁については、インサートとする）

図−1

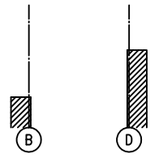


図−2

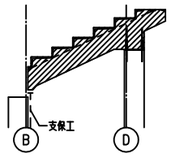


16．施工順序

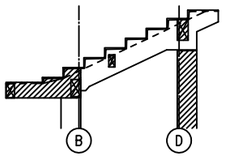
1．RC柱打設



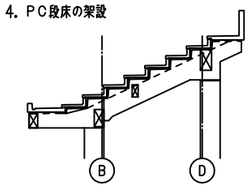
2．PC段梁架設、柱主筋スリーブ継手



3．在来梁・壁の施工



4．PC段床の架設



17．施工業者　PC工事は、（社）プレストレスト・コンクリート建設業協会建築部会の会員の内、一社の責任施工とする。

18．その他　椅子取り付け用アンカーは、後施工アンカーとしPC鋼材との干渉は避けること。

摘　要	月　日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

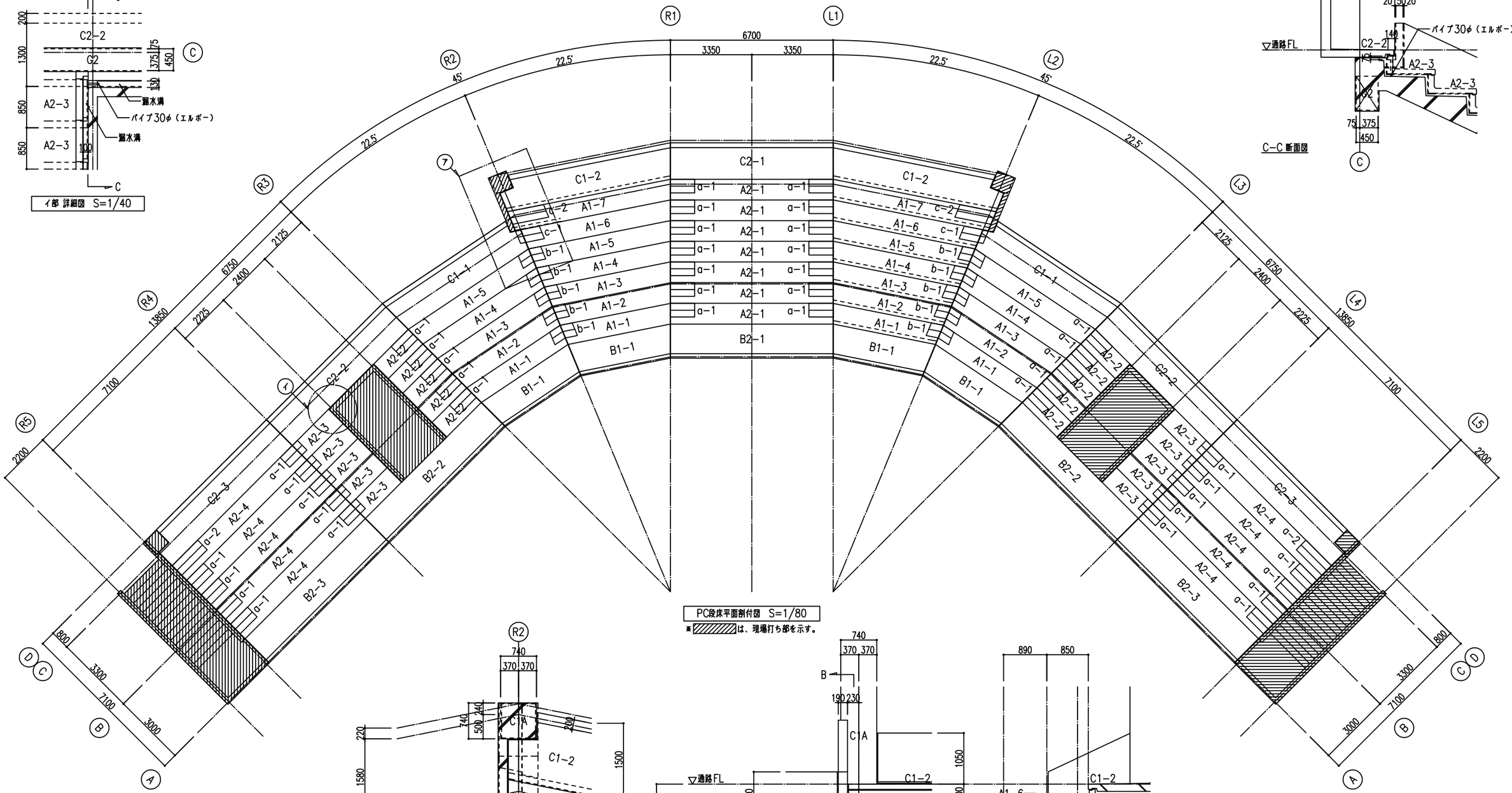
管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

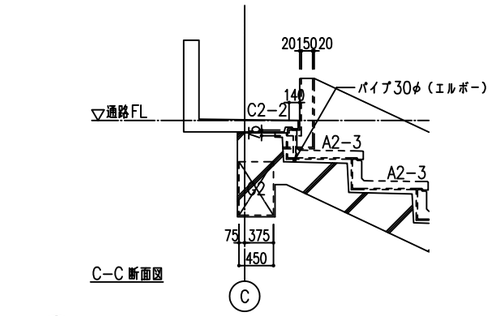
プレキャストコンクリート工事特記仕様書　縮尺 NS (A1) NS (A3)

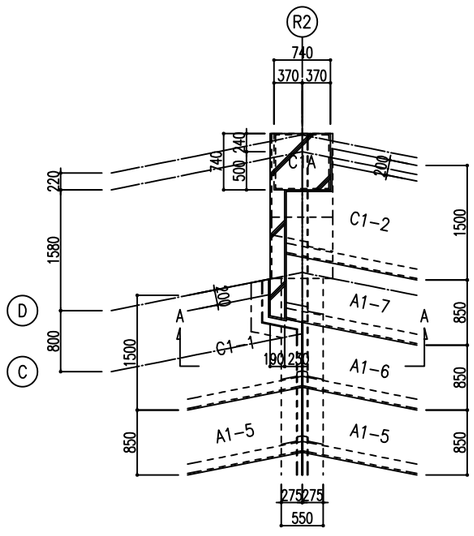
図面番号 No. S 19

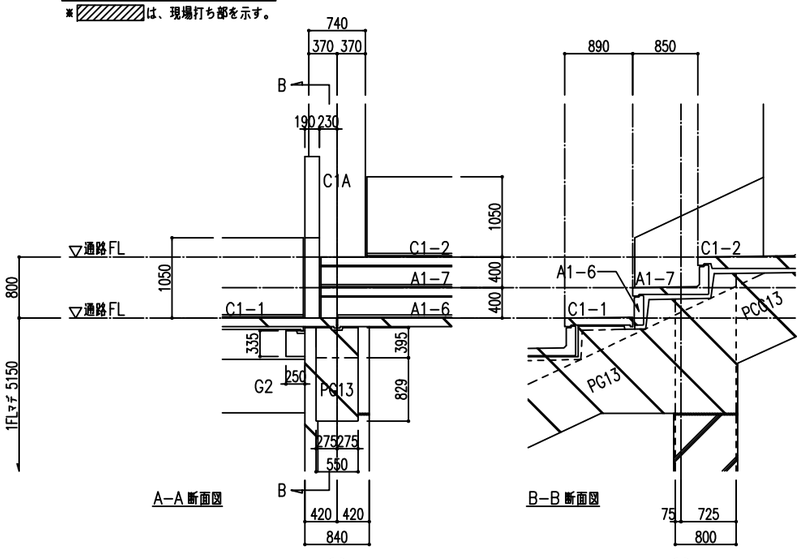


PC段床平面割付図 S=1/80

※▨は、現場打ち部を示す。







摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

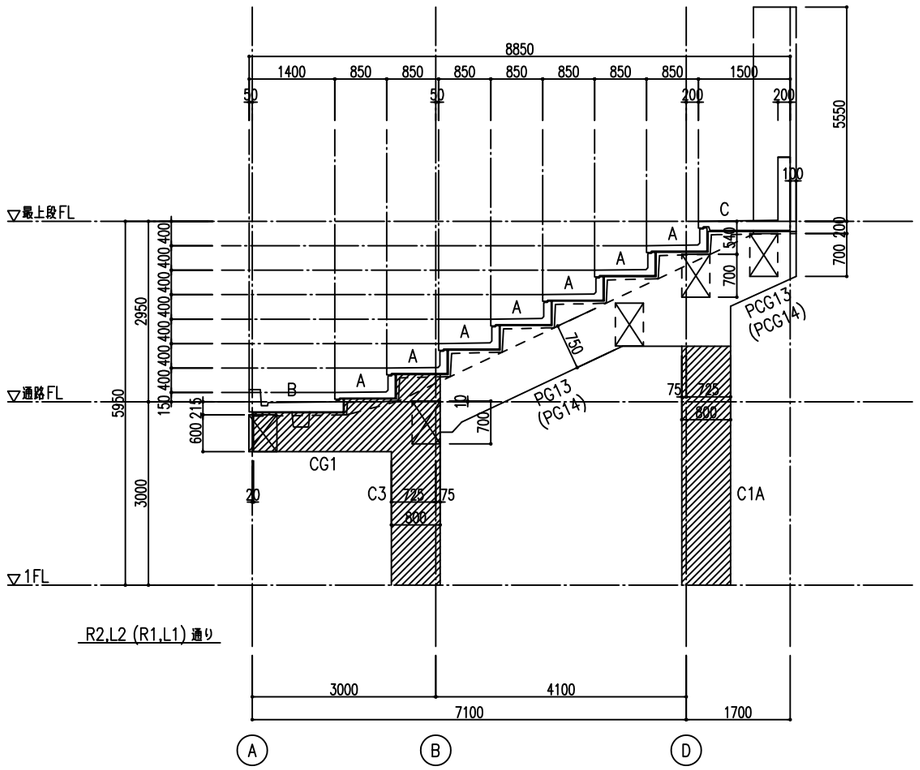
管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

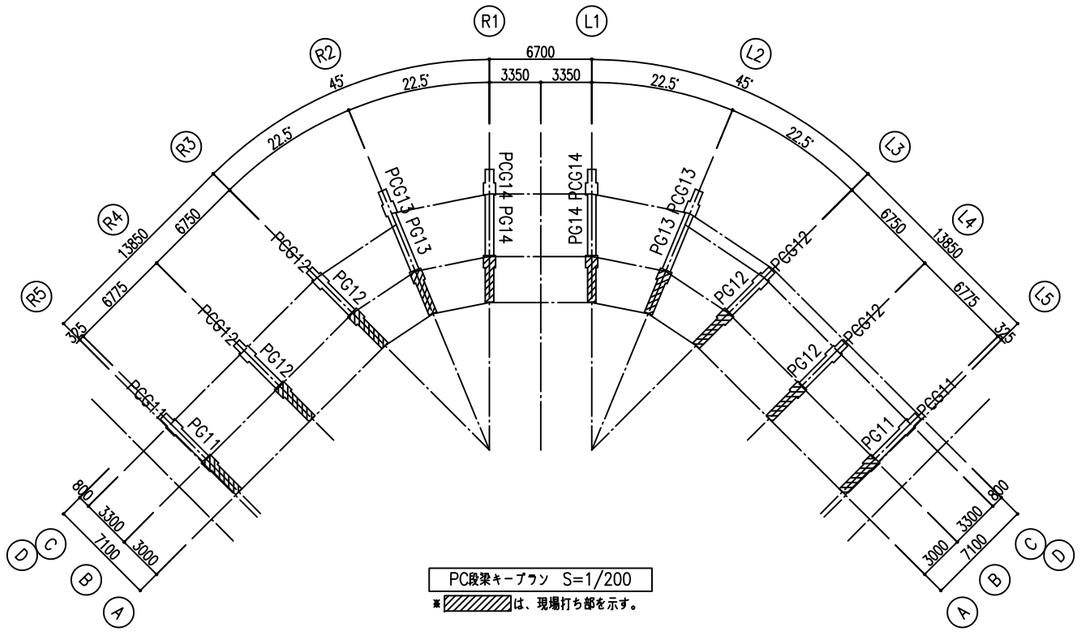
名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

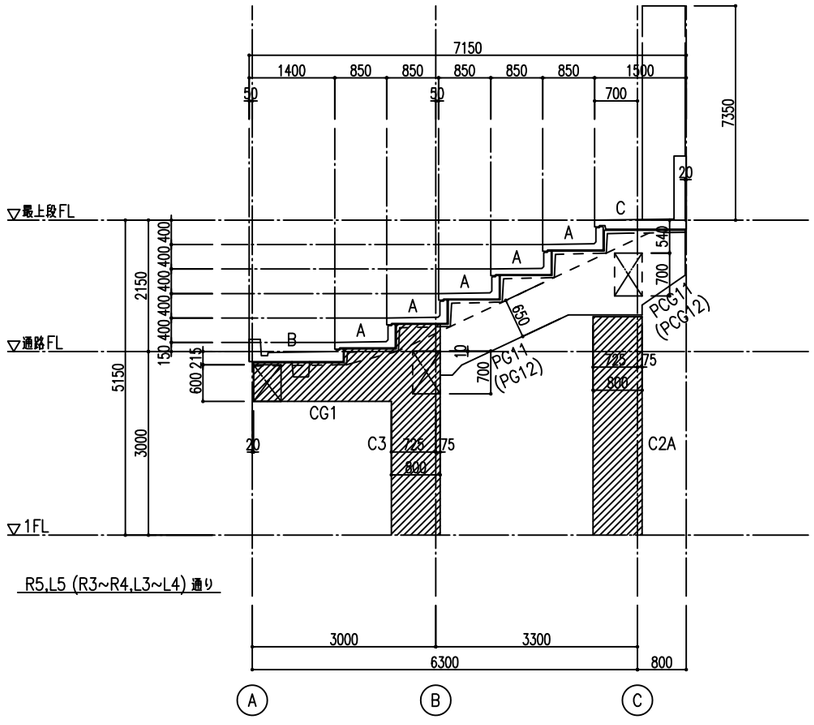
PC段床平面割付図

縮尺 1:80 (A1) 1:160 (A3)

図面番号 No. S 20

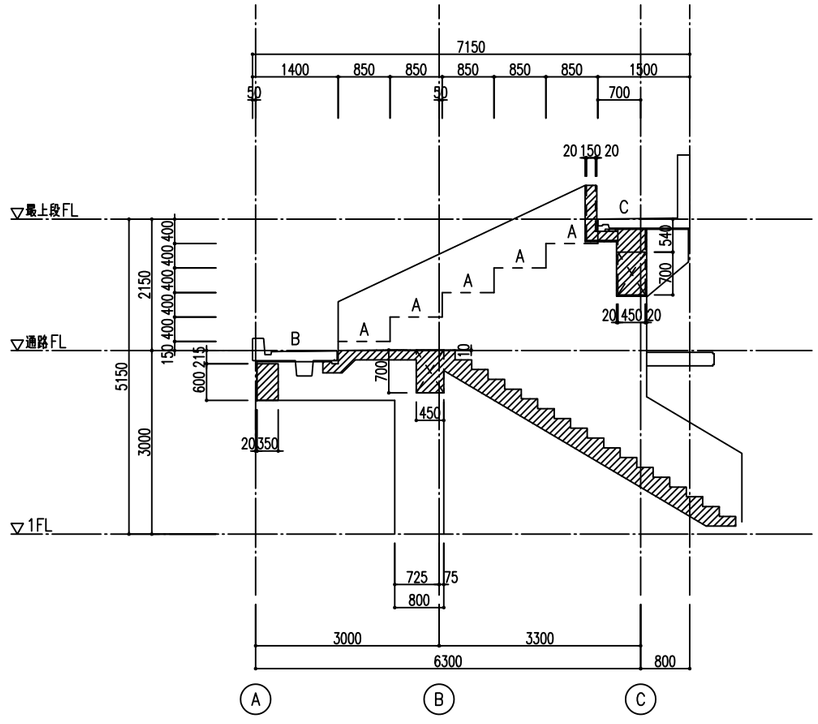






PC段床断面割付図 S=1/50

※▨は、現場打ち部を示す。



階段部断面図 S=1/50

※▨は、現場打ち部を示す。

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

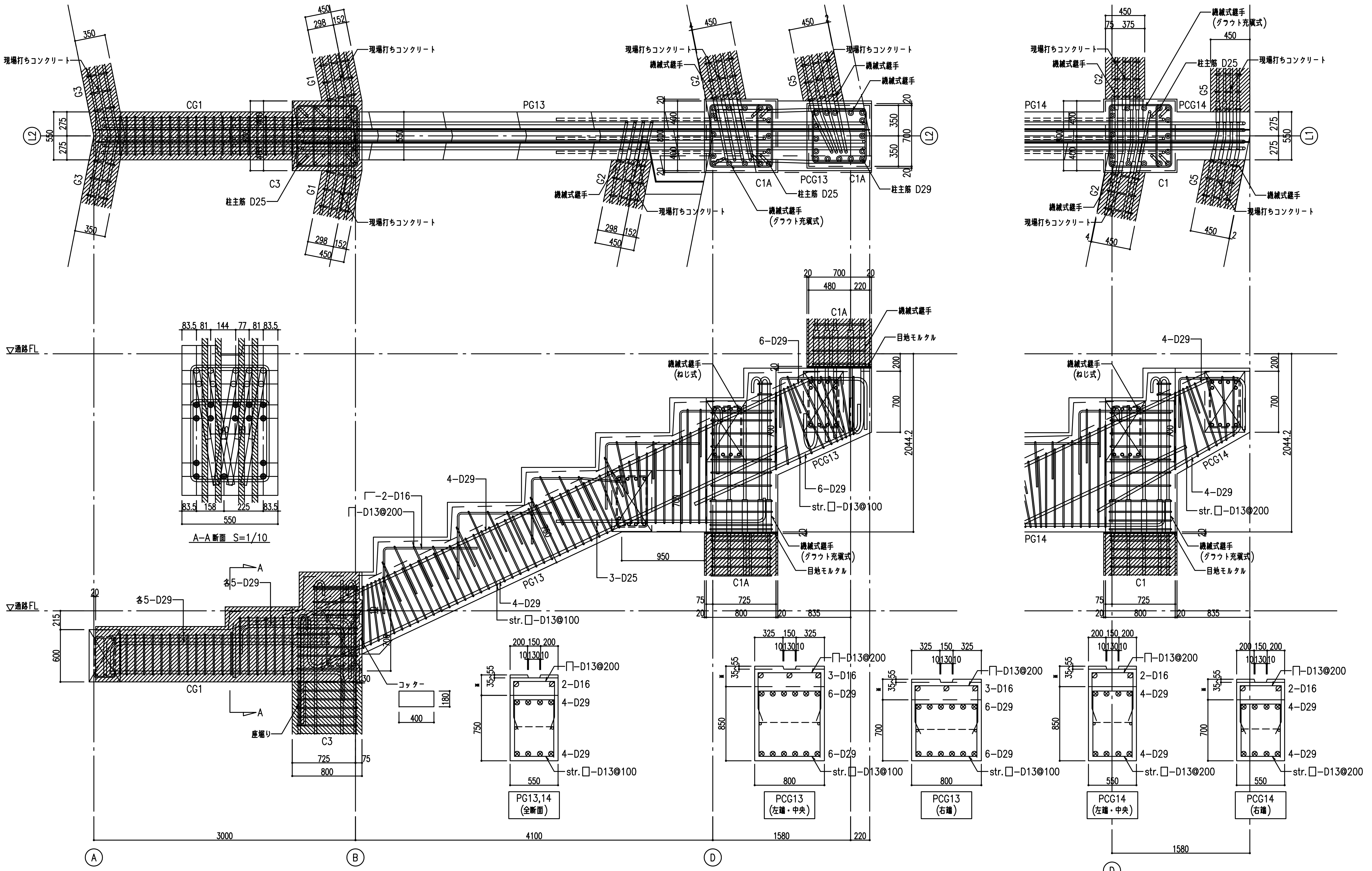
管理建築士	検図者	設計者	担当者
作製			

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

PC段床断面割付図

縮尺 1:50 (A1) 1:100 (A3)

図面番号 No. S 21



PC段梁納まり詳細図(1) S=1/20

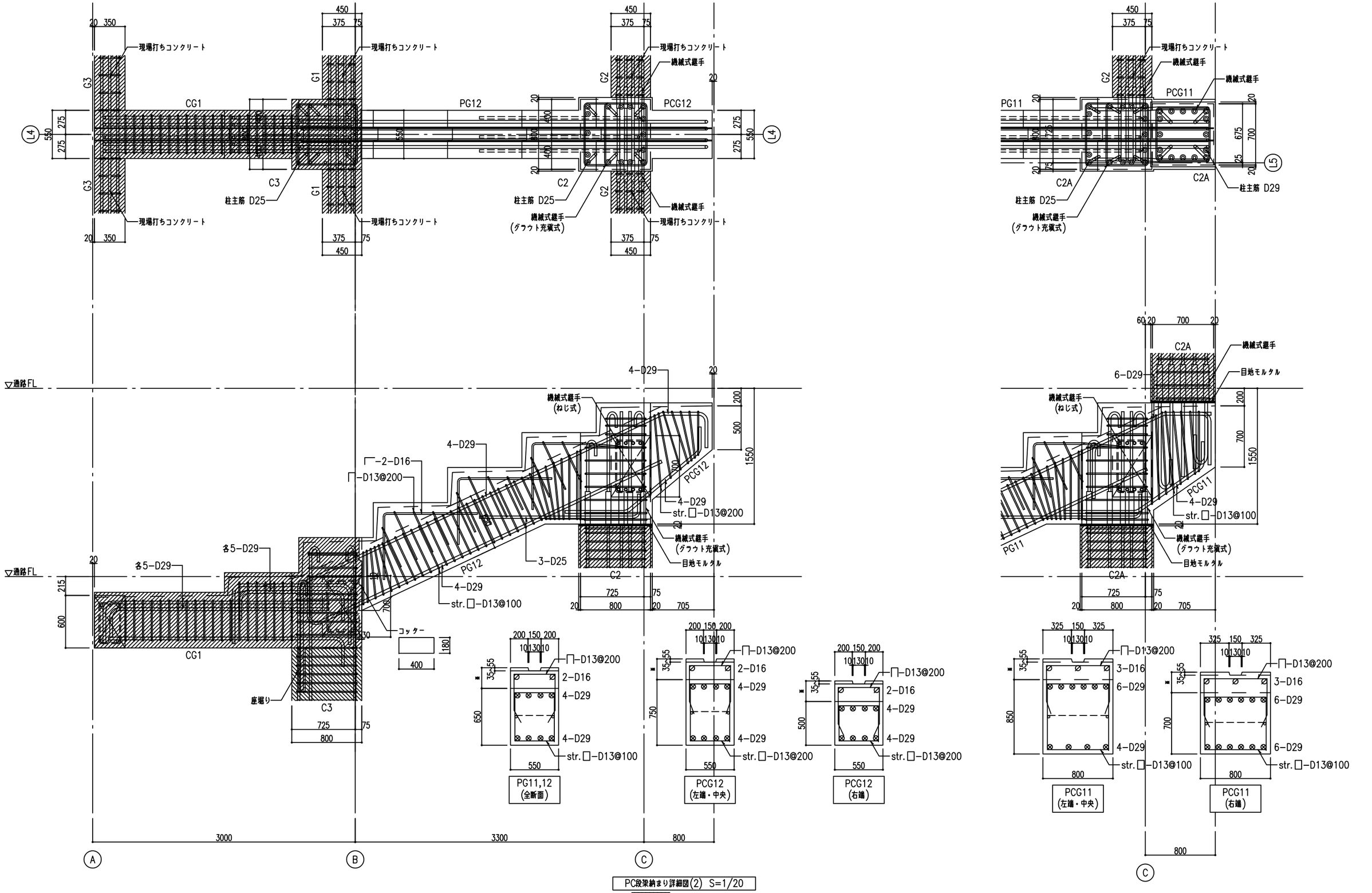
※▨は、現場打ち部を示す。

摘 要	月 日	

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7 TEL 055 (226) 6770番(代) FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士 / 検図者 / 設計者 / 担当者 / 作製

名称: 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事
PC段梁納まり詳細図
縮尺 1:20 (A1) 1:40 (A3)
図面番号 No. S 22



PC段梁納まり詳細図(2) S=1/20

※▨は、現場打ち部を示す。

摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

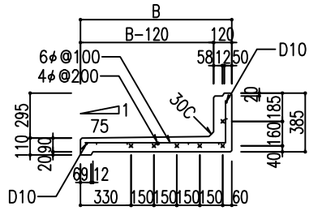
パネルゾーン納まり詳細図

縮尺 1:20 (A1) 1:40 (A3)

図面番号 No. S 23

PC段床配線形状図 S=1/20

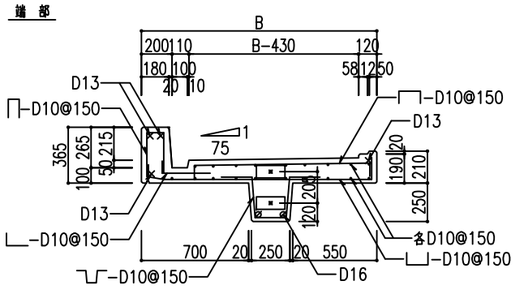
A TYPE



※ PC鋼材：6-SWPR7BL-12.7mm

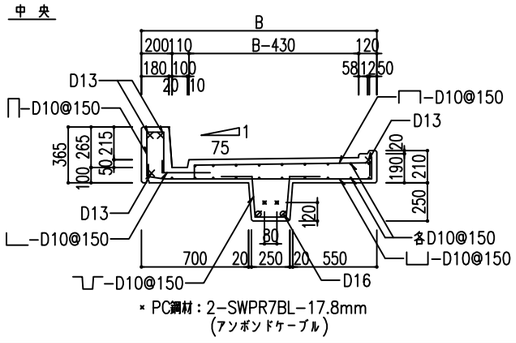
B TYPE

端 部



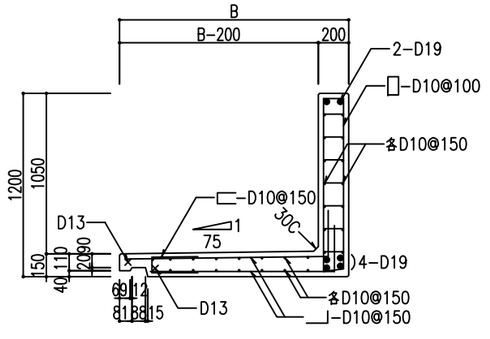
※ PC鋼材：2-SWPR7BL-17.8mm
(アンボンドケーブル)

中 央



※ PC鋼材：2-SWPR7BL-17.8mm
(アンボンドケーブル)

C TYPE

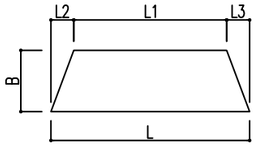


PC段床リスト

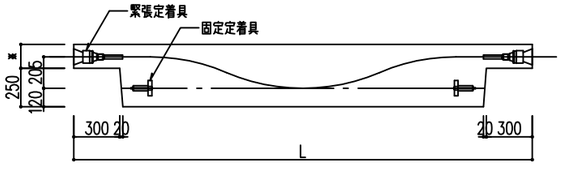
タイプ	A TYPE						
	B	L	L1	L2	L3	N	備考
A1-1	974	4,666	4,278	194	194	4	
A1-2	974	4,998	4,610	194	194	4	
A1-3	974	5,330	4,942	194	194	4	
A1-4	974	5,662	5,274	194	194	4	
A1-5	974	5,994	5,606	194	194	4	
A1-6	974	6,326	5,938	194	194	2	壁周り欠込みあり
A1-7	974	6,878	6,490	194	194	2	
A2-1	990	6,685				7	
A2-2	990	2,002.5				10	
A2-3	990	2,102.5				10	
A2-4	990	6,977.5				10	
					A TYPE 計	61	

タイプ	B TYPE						
	B	L	L1	L2	L3	N	備考
B1-1	1,514	4,335	3,733	301	301	4	
B2-1	1,540	6,685				1	
B2-2	1,540	6,735				2	
B2-3	1,540	6,977.5				2	
					B TYPE 計	9	

タイプ	C TYPE						
	B	L	L1	L2	L3	N	備考
C1-1	1,471	6,523	5,938	292.5	292.5	2	壁周り欠込みあり
C1-2	1,471	7,408	6,823	292.5	292.5	2	柱周り欠込みあり
C2-1	1,500	6,685				1	
C2-2	1,500	6,735				2	
C2-3	1,500	6,977.5				2	柱周り欠込みあり
					C TYPE 計	9	



平面形状図

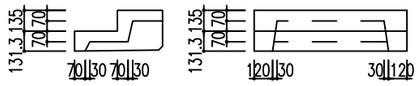


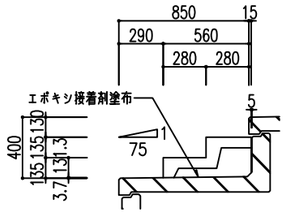
B TYPE 配線図

PC踏石リスト

※設計基準強度は30N/mm² 以上とする。

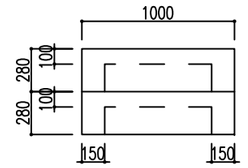
タイプ	N
a-1	42
a-2	2
b-1	10
c-1	2
c-2	2
合計	58



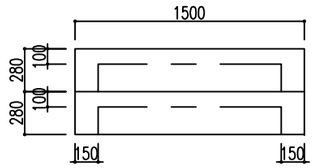


PC踏石形状図 S=1/20

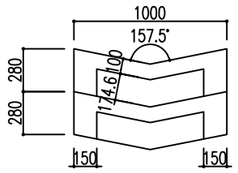
a-1 TYPE



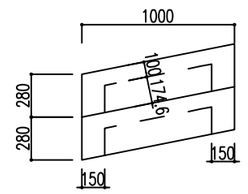
a-2 TYPE



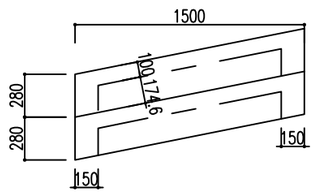
b-1 TYPE



c-1 TYPE



c-2 TYPE



PC段床使用材料表

コンクリート	設計基準強度		Fc = 50 N/mm²
	導入時強度		Fci = 36 N/mm²
PC鋼材	名 称		SWPR7BL-12.7mm
	引張強度		Pu = 183 kN/ケーブル
	降伏強度		Py = 156 kN/ケーブル
	許容引張強度		
		導入時	132.6 kN/ケーブル
		定着時	124.8 kN/ケーブル
	導入力		Po=124.8 kN/ケーブル
PC鋼材 (アンボンド) ●摩擦係数 μ=0.06 λ=0.002 ●セット量 Δl=3mm	名 称		SWPR7BL-17.8mm
	引張強度		Pu = 387 kN/ケーブル
	降伏強度		Py = 330 kN/ケーブル
	許容引張強度		
		導入時	281 kN/ケーブル
		定着時	264 kN/ケーブル
	端部作業時緊張力		Po= 264 kN/ケーブル
鉄 筋	SD295A(~D16),SD345(D19~D25),SD390(D29~)		

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘 要	月 日		

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作 製			

名 称 緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

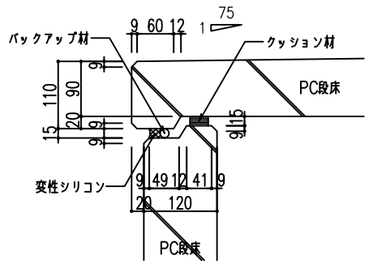
PC段床 部材リスト

縮 尺 1:20 (A1) 1:40 (A3)

図面番号 No. S 24

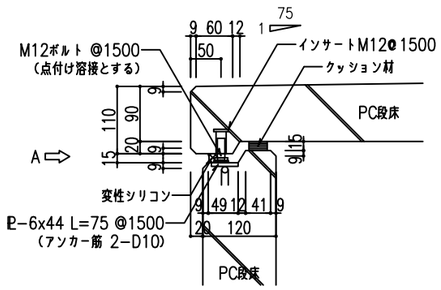
PC段床目地部詳細図　S=1/5

端部横目地詳細図

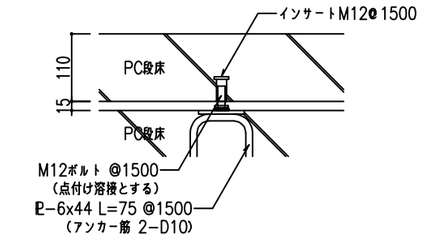


版相互接合部

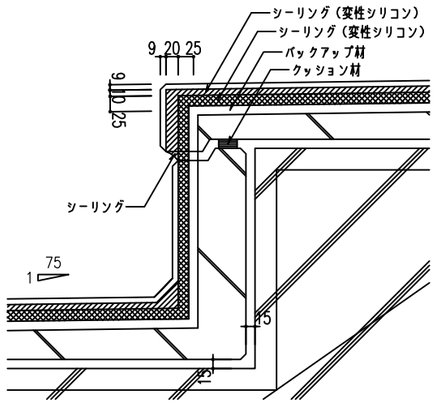
※ @1500以内で配置



A 視

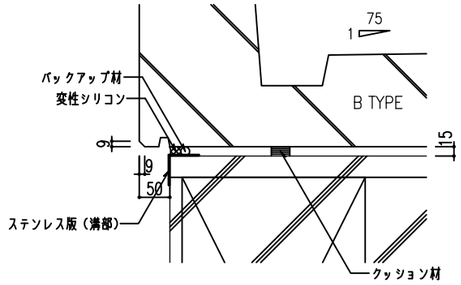


縦目地部詳細図　S=1/5

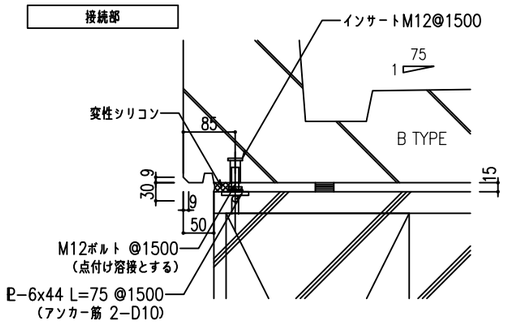


最前部詳細図（B TYPE）　S=1/5

目地部詳細図

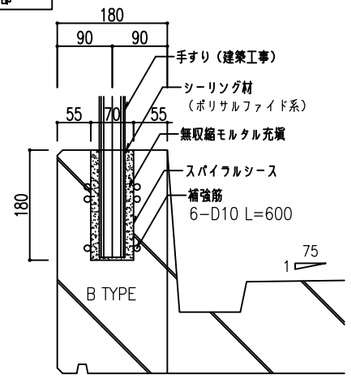


接続部

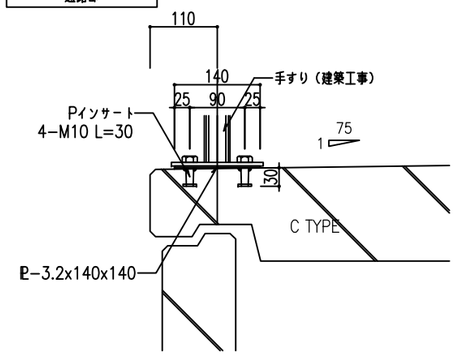


手摺り取付け詳細図【参考】　S=1/5

立ち上がり部

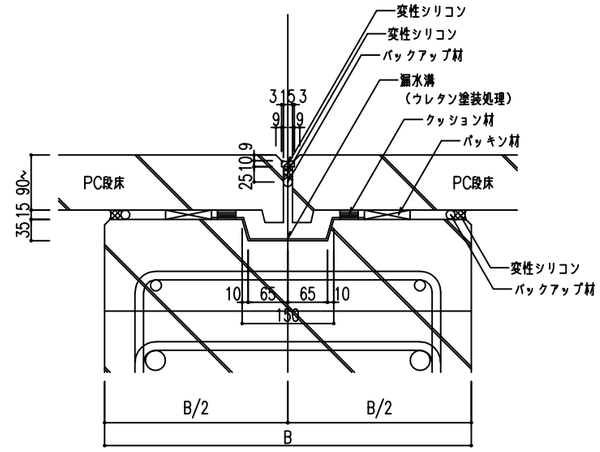


通路部

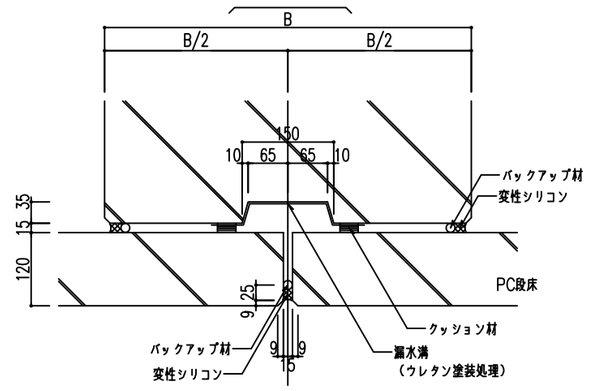


PC段床－PC梁取合い詳細図　S=1/5

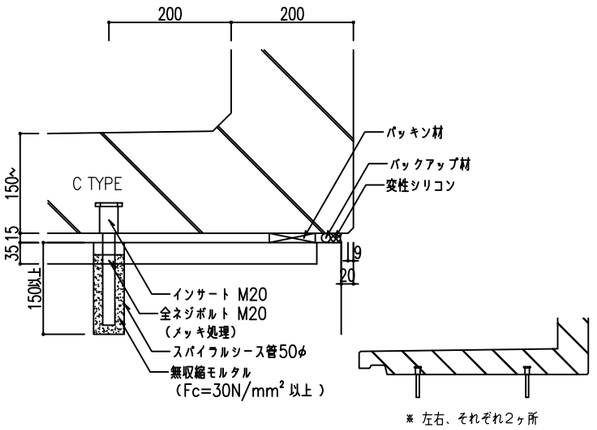
路面部断面詳細図



踏上部断面詳細図



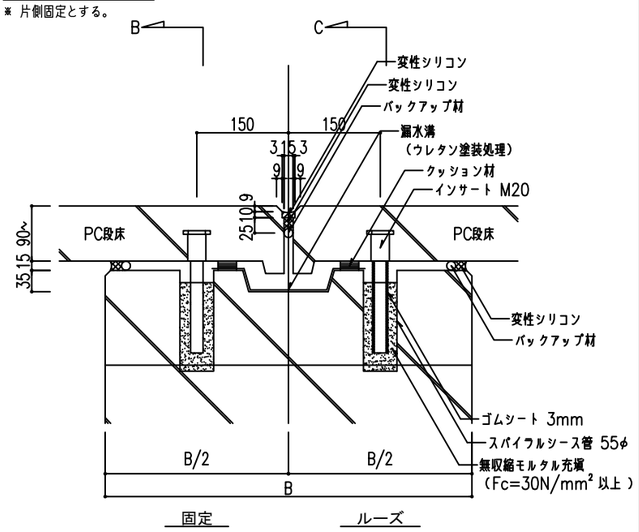
最上段納まり詳細図（C TYPE）　S=1/5



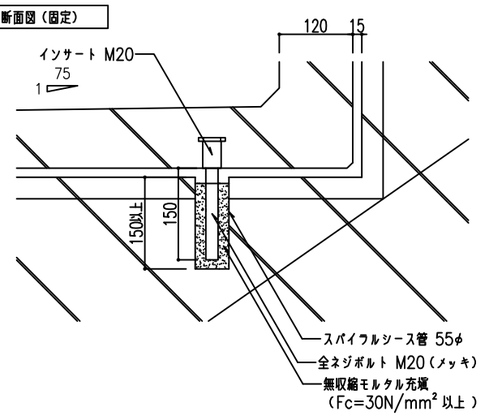
PC段床アンカー詳細図　S=1/5

路面部断面詳細図

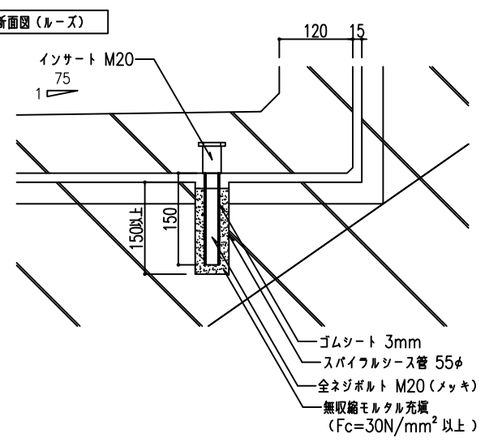
※ 片側固定とする。



B 断面図（固定）



C 断面図（ルーズ）



摘要	月日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

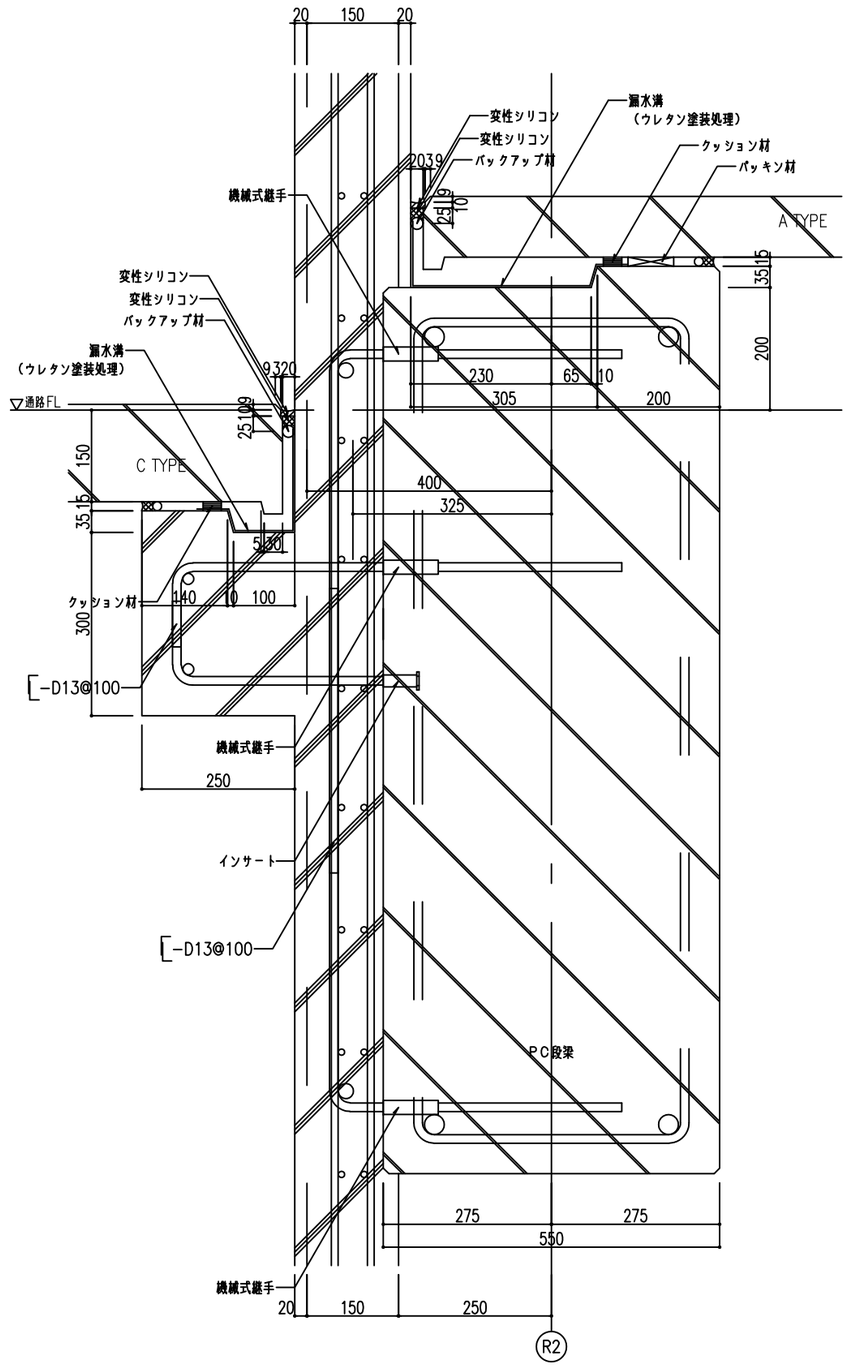
名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

PC段床各部詳細図（1）

縮尺　1:5 (A1)　1:10 (A3)

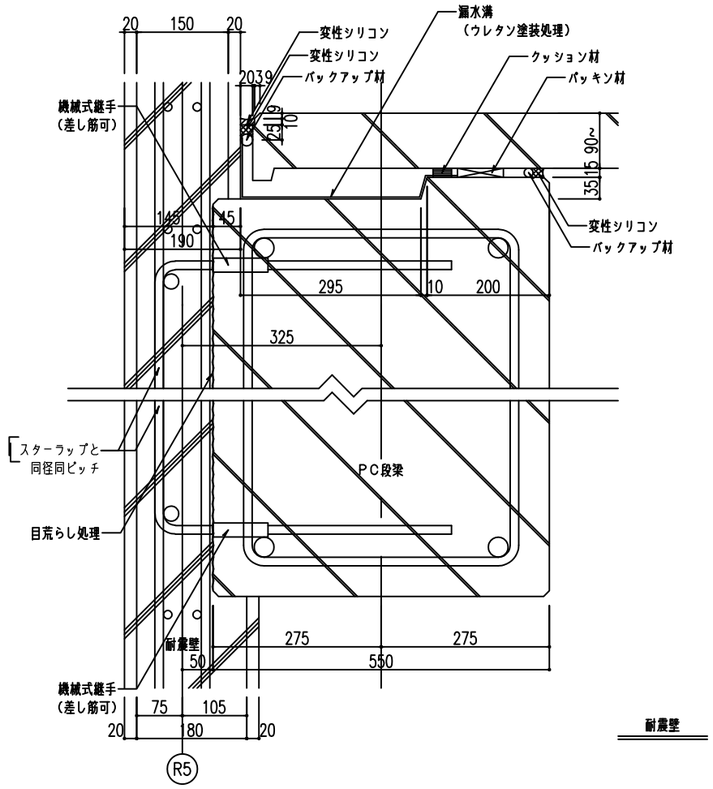
図面番号　No. S 25

PC段床ー現場打ち壁取合い詳細図　S=1/5

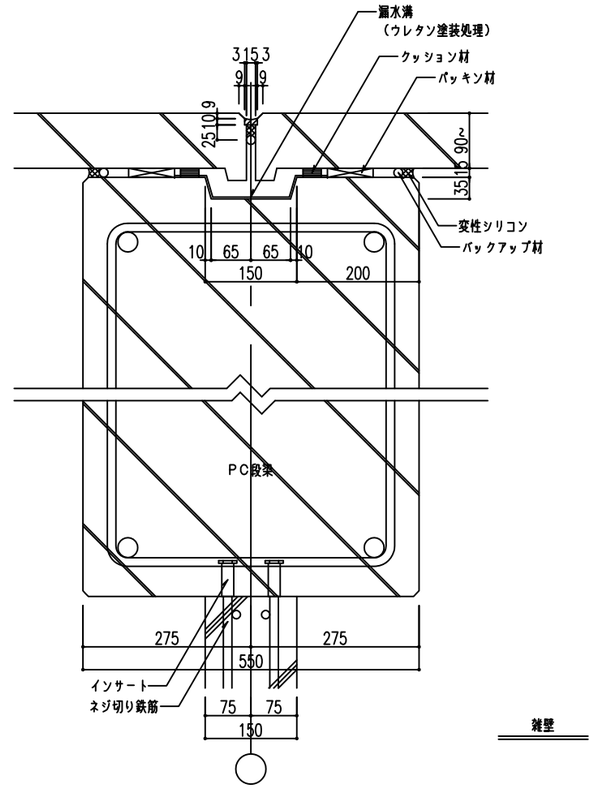


※ 梁増打ちコンクリート補強は標準図にならう。

PC段床ー現場打ち壁取合い詳細図　S=1/5



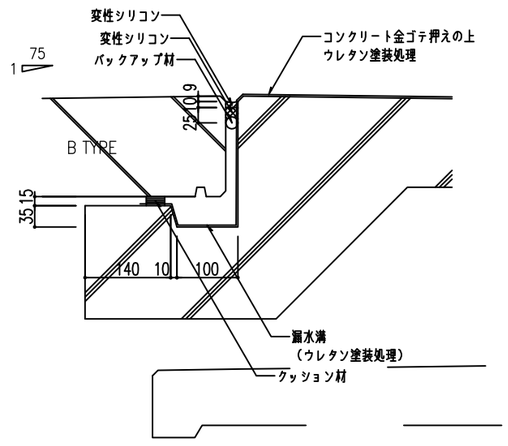
耐震壁



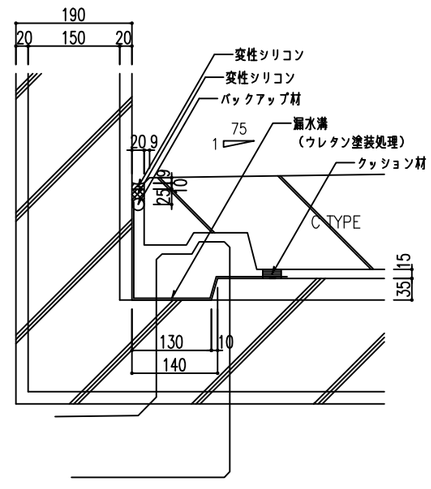
雑壁

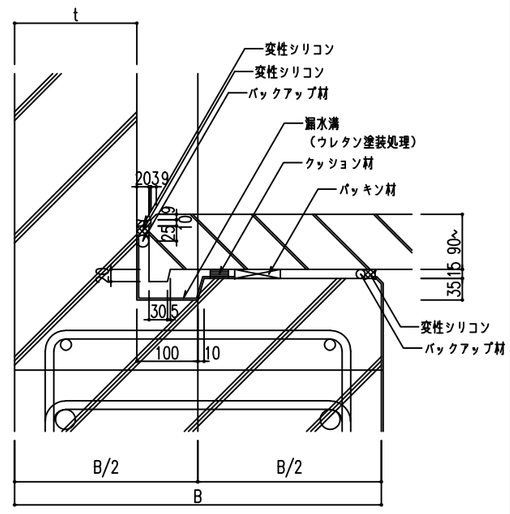
※ 梁増打ちコンクリート補強は標準図にならう。

通路版と屋外階段納まり（B TYPE）　S=1/5



現場打ち壁との取合踏面鼻先詳細図（C TYPE）　S=1/5





摘　要	月　日			

株式会社　雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL　055（226）6770番(代)
FAX　055（226）6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設（建築主体）工事

PC段床各部詳細図（2）

縮尺　1:5（A1）　1:10（A3）

図面番号　No. S　26

★★ 平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。

(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
但し、ベースプレートの厚さは除く。

(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（２）工作一般

(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。

(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。

(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（３）高力ボルト接合

(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。

(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

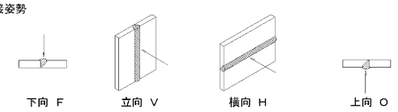
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。

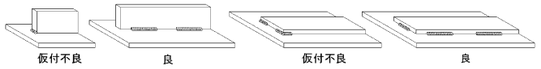
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) セルフシールドアーク溶接機　(ヘ) 溶接棒乾燥器

(d) 溶接方法
被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP)　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)
セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、NGC）　アークエアーガウジング（AAG）

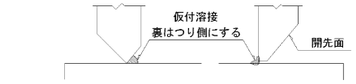
(e) 溶接姿勢



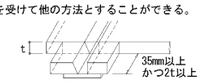
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
(イ) 仮付位置
組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

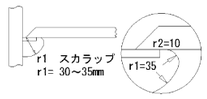


(g) 溶接施工
(イ) エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、MC：35mm以上
NGC,GC：40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。
・プレス鋼板タブ、圏形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。

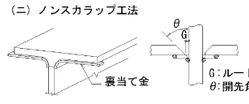


(ロ) 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

(ハ) スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



(ニ) ノンスカラップ工法



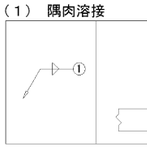
(ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。

(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

（５） 塗 装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

２．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長　（単位mm）

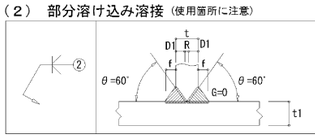
（１） 隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1,t2の小なる方とする。
余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

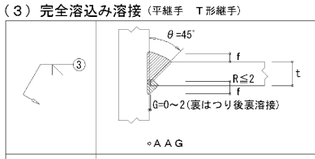
（２） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16<t≦40
溶接姿勢	F.V

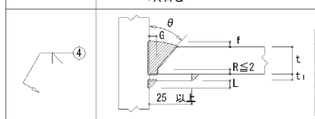
（３） 完全溶込み溶接（平継手　T形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

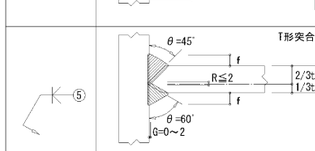
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

◦ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



T形突合せ継手余盛

t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t≦40	4
溶接姿勢	F.V

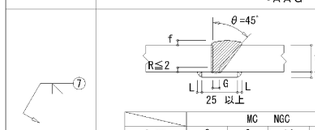
◦ＡＡＧ

0 < f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする)

t2/4 ≦ a ≦ 10
(平継手で板厚が異なる時)

t	6<t≦40
溶接姿勢	F.V

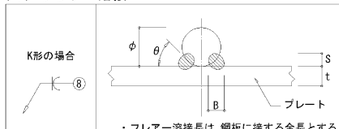
◦ＡＡＧ



0 < f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時3.0mmを4.0mmとする)

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

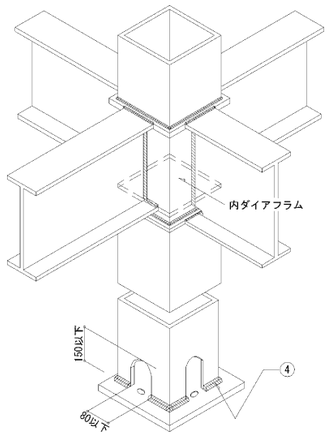
（４） フレアー溶接

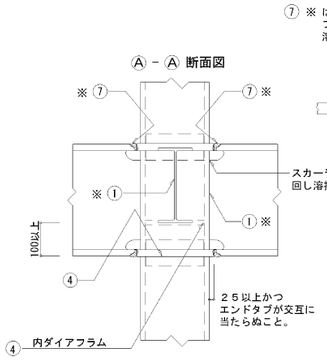


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

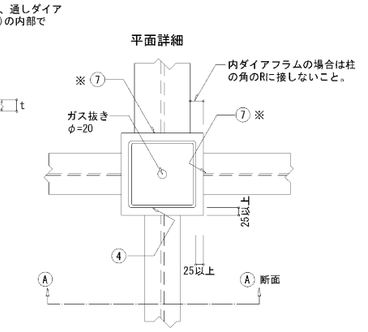
・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
溶接棒角度θは30°～40°とする。

●BOX型（通しダイアフラムの場合）



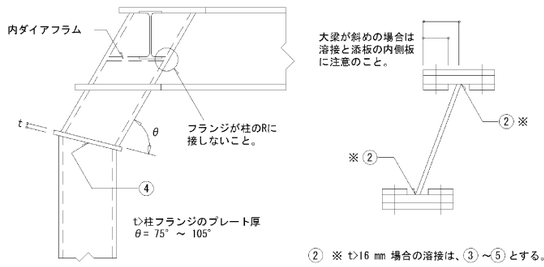


Ⅰ ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。



ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
< 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 >
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

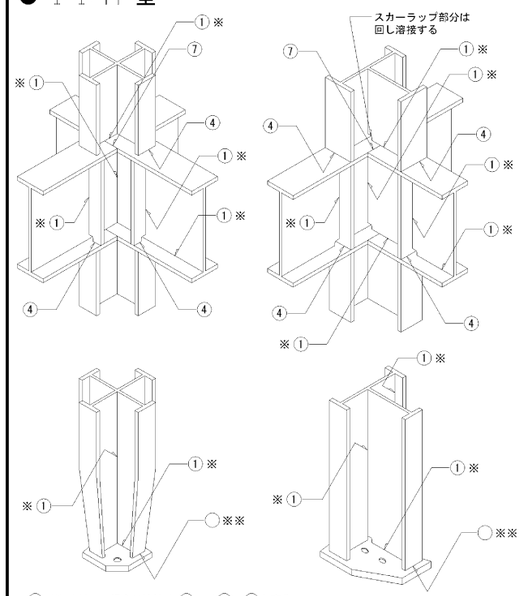
●鋼材種別による溶接条件

溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類	溶 接 材 料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
400N/mm² 級鋼	JIS Z 3312	40 以下	350 以下
	YGW-11、15		
	YGW-18、19		
	JIS Z 3315		
	YGA-50W、50P		
490N/mm² 級鋼	JIS Z 3312	40 〃	350 〃
	YGW-11、15	30 〃	250 〃
	YGW-18、19	40 〃	350 〃
	JIS Z 3315	40 〃	350 〃
	YGA-50W、50P		

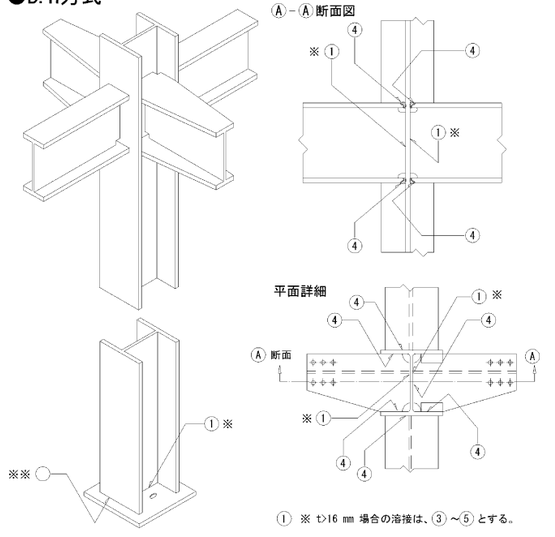
注）STKR,BCR,BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「新構造設計特記仕様そのⅠ 6.鉄骨工事(2)□認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

● 工 型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
◯ ※※ 印は設計者が記入すること。

●B. H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘 要	月 日			

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

鉄骨構造標準図(1)　縮 尺 － (A1) － (A3)

図面番号 No. S 27

★★ 平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

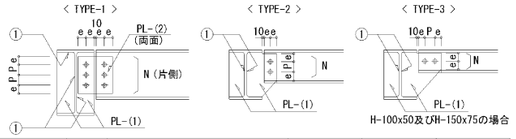
３．継手規準図，その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

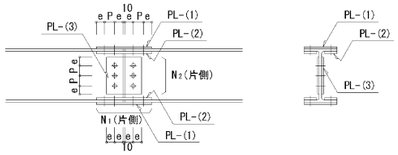
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N - 径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・5・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5・8	6		2－M16
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5・9	9		3－M20
	2	H－350・175・7・11	9		4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

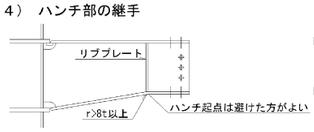
（３）剛接合梁継手リスト　(SCSS-H97による)



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

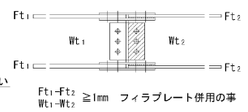
符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁- 径	ウエブ PL-(3)	N₂- 径

（４） ハンチ部の継手

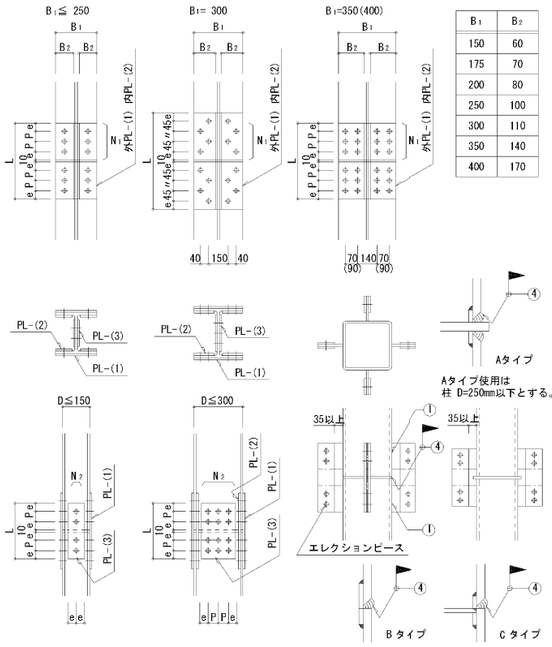


ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



（５）柱継手リスト



B₁	B₂
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁- 径	ウエブ PL-(3)	N₂- 径

（６）ターンバックルブレース（JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008）

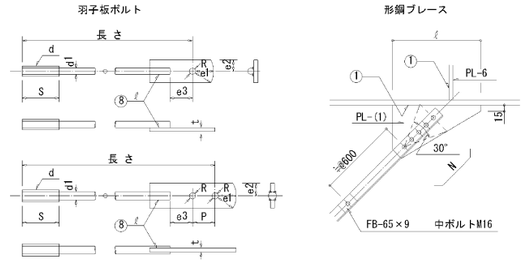
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0，-0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき(最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		W	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種　類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T) (3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

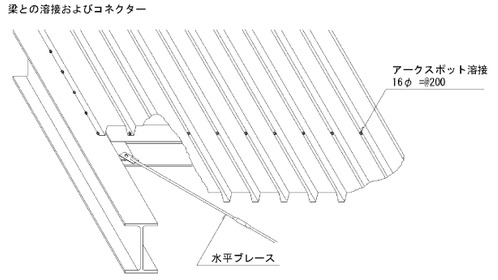
〔注〕(1) e1, e2が確保されれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

(b) 形鋼ブレース

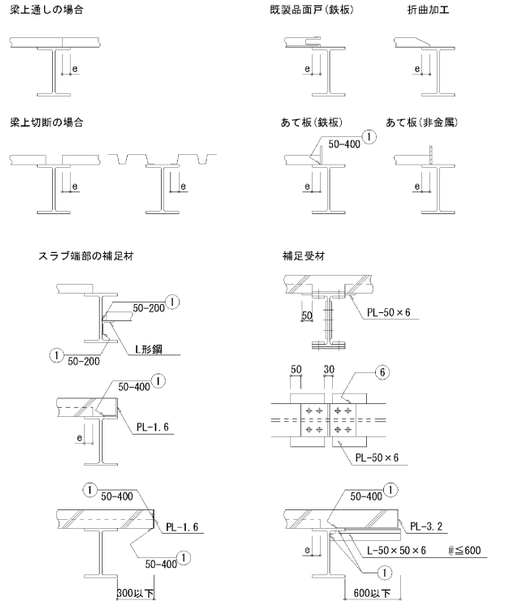
符 号	部　材	PL-(1)	N - 径	ℓ



（７）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床，合成梁のときは構造図参照）

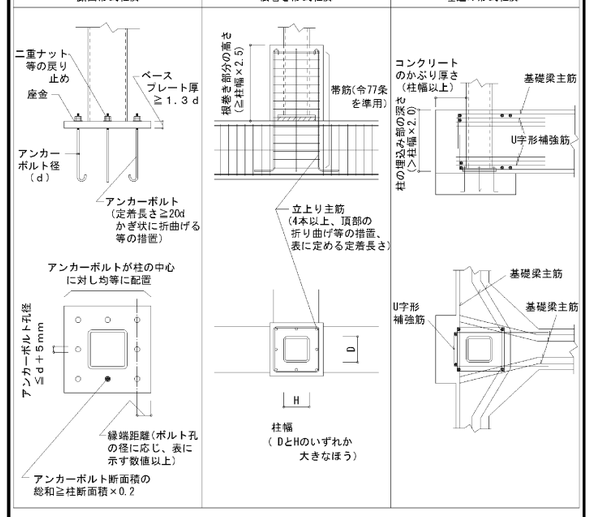


受梁へのかかり寸法及端部処理　e ： 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



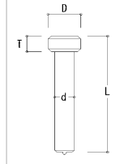
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド（JIS B 1198 - 2011）

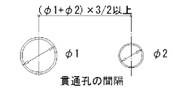
スタッド材の標準形状・寸法

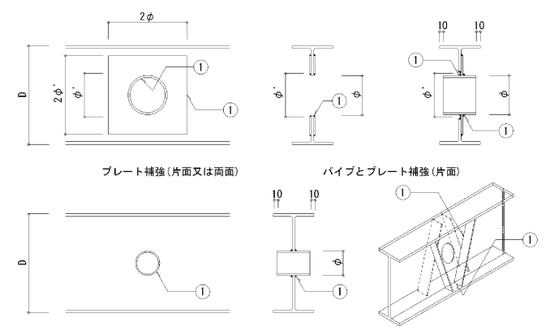


形状	スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
	φ13 mm	13	25	8	□80　□100　□120　□
	φ16 mm	16	29	8	□80　□100　□120　□
	φ19 mm	19	32	10	□80　□100　□120　□150　□
	φ22 mm	22	35	10	□80　□100　□120　□150　□
	φ25 mm	25	41	12	□120　□150　□170　□

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置，寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパン/0 の1/10以内かつ、2D以内）は避ける。
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

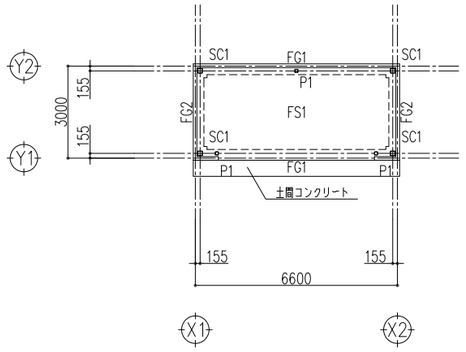
株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

摘　要	月　日			

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作　製			

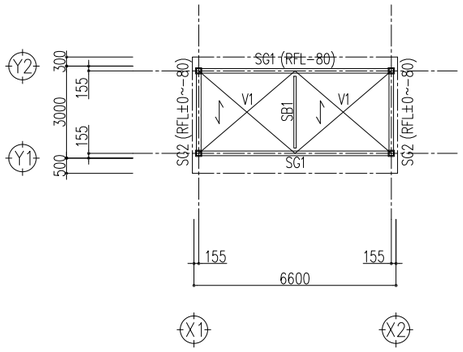
名　称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事
鉄骨構造標準図(2)　縮　尺　－　(A1)　－　(A3)

図面番号 No. S 28



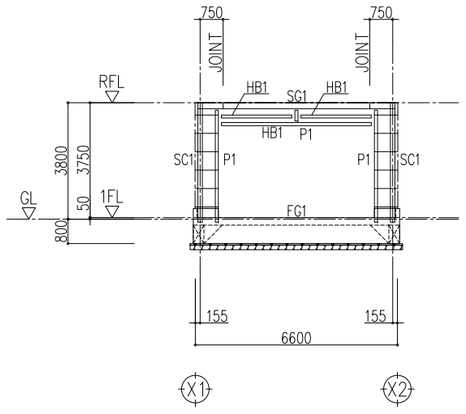
1階床伏図　S=1:100

特記を除き　スラブ天端レベル　1FL±0
基礎梁天端レベル　1FL−250
ベースプレート下端レベル　GL−170



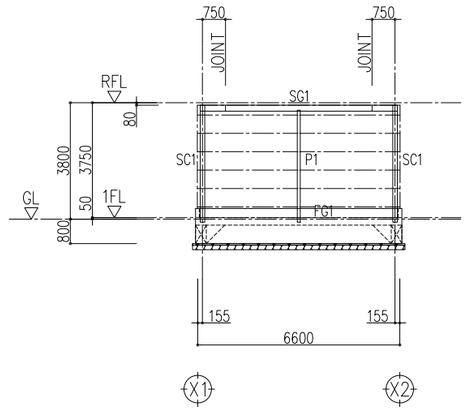
屋根伏図　S=1:100

特記を除き　鉄骨梁天端レベル　RFL±0
大梁継手位置　柱芯＋750
♪印は折板方向を示す



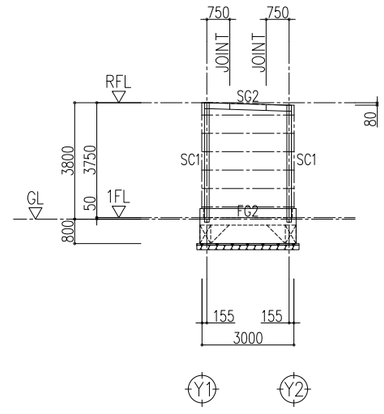
Y1通り軸組図　S=1:100

特記を除き　基礎梁天端レベル　1FL−250
ベースプレート下端レベル　GL−170
胴縁　C−100x50x20x2.3@600



Y2通り軸組図　S=1:100

特記を除き　基礎梁天端レベル　1FL−250
ベースプレート下端レベル　GL−170
胴縁　C−100x50x20x2.3@600



X1，X2通り軸組図　S=1:100

特記を除き　基礎梁天端レベル　1FL−250
ベースプレート下端レベル　GL−170
胴縁　C−100x50x20x2.3@600

摘要	月日				

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士　中田 雅弘　第343612号
一級建築士事務所　第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製

名称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事

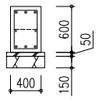
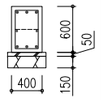
整備機械置場　床伏図・軸組図

縮尺　1:100 (A1)　1:200 (A3)

図面番号　No. S　29

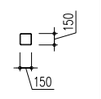
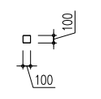
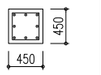
地中梁リスト　S=1:40

特記を除き　幅止め筋　D10−@1,000
< 印は二段筋を示す

符 号	FG1	FG2
位 置	全断面	全断面
断 面		
上 端 筋	3−D19	3−D19
下 端 筋	3−D19	3−D19
スターラップ	2−D13−@200	2−D13−@200
腹 筋	2−D10	2−D10
備 考		

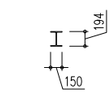
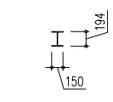
柱リスト　S=1:40

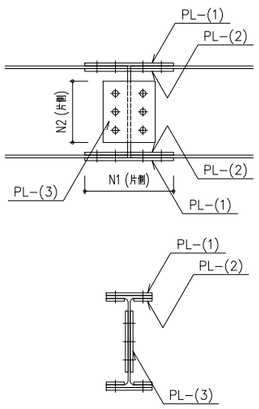
特記を除き　鉄骨材質　STKR400

符 号	C1	P1
ダイヤフラム	PL−16 (SN490C)	−
鉄 骨	□−150x150x6	□−100x100x3.2
断 面		
ベースプレート	BPL −300x300x25 (SN490B)	BPL −300x150x12 (SS400)
アンカーボルト	4−M24 L=550 (SNR490)	2−M16 L=400 (SS400)
備 考		GPL−6 2−M16 (SS400)
柱脚断面		
主 筋	8−D16	
フ ー プ	□−D13−@100	
備 考		

鉄骨大梁リスト　S=1:40

特記を除き　鉄骨材質　SS400

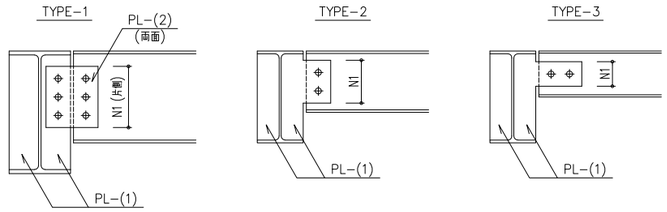
符 号		SG1	SG2
鉄 骨		H−194x150x6x9	H−194x150x6x9
断 面			
継 手	PL−(1)	SPL −9x200x290	SPL −9x200x290
	PL−(2)	SPL −9x60x290	SPL −9x60x290
	N1	4−M16	4−M16
	PL−(3)	SPL −6x230x140	SPL −6x230x140
	N2	2−M16	2−M16
備 考			



鉄骨小梁リスト

特記を除き　鉄骨材質　SS400

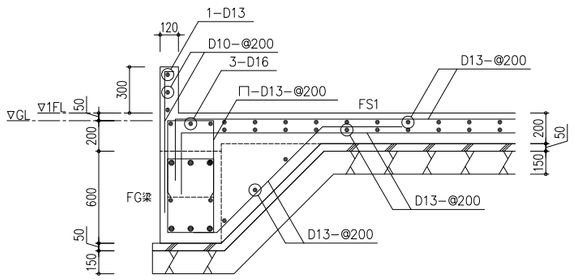
符 号	鉄 骨	継 手 TYPE	PL−(1)	PL−(2)	N1	備 考
SB1	H−150x75x5x7	3	GPL −6	−	2−M16	
HB1	□−100x100x3.2 (STKR400)	3	GPL −6	−	2−M16	
胴縁	C−100x50x20x2.3@600	3	GPL −6	−	2−M12	中ボルト
V1	1−M12 (ターンバックル付き)	−	GPL −6	−	1−M12	水平ブレース



スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	配 筋 短辺方向(主筋)	配 筋 長辺方向(配力筋)	備 考
FS1	200	上 端 筋	D13−@200	D13−@200	耐圧スラブ
		下 端 筋	D13−@200	D13−@200	捨てコン 50 + 地業 150

各部 配筋要領図　S=1:20



摘 要	月 日			

株式会社 雨宮建築設計事務所
甲府市上石田4丁目7-7
TEL 055 (226) 6770番(代)
FAX 055 (226) 6750番
一級建築士 中田 雅弘 第343612号
一級建築士事務所 第1- 29571号
e-mail : info@amemiya-sekkei.com

管理建築士	検図者	設計者	担当者
作 製			

名 称　緑が丘スポーツ公園野球場本部棟建設(建築主体)工事
整備機械倉庫　部材リスト
縮 尺　1:40 (A1)　1:80 (A3)

図面番号　No. S 30